江戸名所圖會

十二

ル 4
5105
12

門ル4
號5105
卷12

戸塚　今高田ホ属す古ハ此地の惣名とす北条家の分限帳ニ恒岡弾正忠牛込ヨリ冨塚の地を領ス云々注せり江戸鹿子ニ昔洪水の時此地を流レ里老の説ホ宝泉寺の地ヨリ冨塚と云ありてホの名も冨塚村と呼ぶ今ハ戸ヨリ改むると云云或人云旧岡本氏某の邸の地ヨリ古き塚ありて白狐の窩となす戸塚ハ狐塚を誤るなり按ホ狐塚とのみハ水稲荷の社の傍ヨリある塚のみを云ふ十塚と呼ぶ高田雲雀ヘーともいひ草紙ホ戸塚の祠ハ宝泉寺にありと記せるも信ずるに足らず今ハ此ホ狐の形の石の扉ある祠ホ昔より戸塚といふとあり

百八塚　今其所在さだかならず此高田の辺より大久保迫の間をもつて百八負の塚を築くと今ハ悉く其所在を失ふ

佛ホ供養の為

昭41年12月20日寄贈
原安三郎氏

高田天満宮　同所八幡宮より馬場の方へ行道の左側ヨリ別当成願寺と称する禅林あり其寺記ヨ参木按ヨ中野村熊野十二所権現の別当ニ荘司重邦の後裔鈴木九郎とて住す家大ホ冨をもつて聞ゆ其姓天ヶ来ヨ中野の地ヨ住すれと宿因ありや九郎大ホ戯き居宅を壊ちて精舎とし女の法号正観を以て寺号とし自らも又名を正蓮と改むるあり若くハ此百八負の塚ヨリ造立せるホもしれず或云く今俗場下町を供養塚町と唱ふるも是旧称の残れるホ此地ヨ建立せるホ云云再ひ案ずるホ此地を昔冨塚と号けしも冨民の剃髪するあるヨリ冨塚と呼べるを中古より美の一字を冠して登津加と唱ふるホ美の一字を略せるなり

0 41 9557

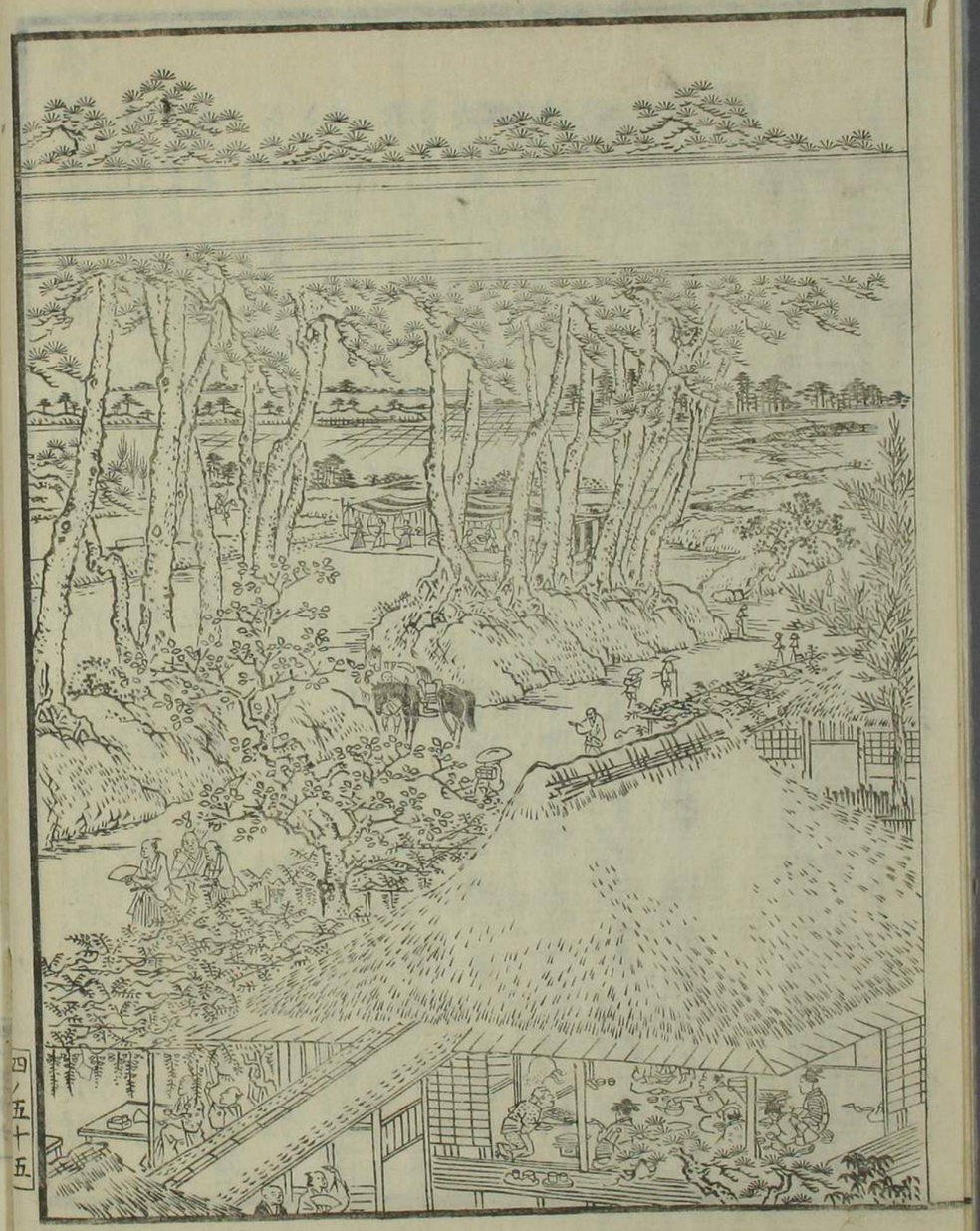
真言宗ゆゑく真定院と号ス神躰ハ菅神手造の霊像ゐて
一寸八分ありと云相伝ふ寛永の頃　大樹此神像を大橋立慶ふ
賜ふ（此立慶ハ大ハ堪能の人やく大橋流筆法の祖ゐて菊岡沾涼のつゐ接ふ息男大橋長左衛門重政代家流より出ゐ一家をゐを是世間ふ所謂大橋流と称ゐるものゐり）依ゐく立慶當社を建く神前ふ懸ゐゐの戸帳ふ其旨趣を記し置とゐゐも（當社の旧地ハ牛込清松寺の辺り今天神町と唱ふる地ゐり望海毎談とゐゐ一冊子ふ寛永七年の事実を記せり）次ふ祐筆大橋立慶ふ高田大炙の屋敷をゐ又菅神の真筆の佛経とゐゐ地ゐ天神の宮あゐゐを記せり証とゐゐ
を収むる由云へゐも社前ふある所の龍神及ひ鬼子母神ゐゐ石像ハ
昔此地ゐ経蔵ありし頃守護の為ふ造立せしゐゐ
大樹ゐゐの菅神の像を一社ふ奉ゐ
按ゐ當社の傳ふハ大橋立慶
とあゐく旧地を天神町とゐ土人清松寺の地昔ハ大橋氏の宅地なりとゐ南向
亭茶話ゐ云大炙宗五郎義延自らの宅地ふ太宰府の天満宮を迁しまゐゐ
ゐ地を天神町と号く後高田ふ移ゐ元禄二年開板の江戸鹿子ふ二百余年ふ及ふ
も今猶存ゐありまゐ再ひ按ふ元禄大炙義延ハ文禄の頃の人なれハ其頃宅地ふ勧請せし
とゐゐふ依ゐく考ゐゐふ大橋氏ゐ歟ふ居住しゐゐ樹より
ゐゐゐん按ふ寛永ハ寛政の今ふ至ゐ未二百年ゐゐ
高田馬場　同し北の方ふあゐ追廻しと称しく二筋あり竪ハ東西へ

六町ふ横の幅ハ南北へ三十余間あり相伝ふ昔右大将頼朝卿隅
田川より此地ふ至ゐ軍の勢揃ありし旧跡なりとゐり土人の説に
慶長年間越後少将（忠輝卿）の浄安堂高田の君遊望の敵として開き
らゐゐの芝生なりしゐ寛永十三年ふ至ゐ今のゐく馬場を築り廿丈
弓馬調練の所となさしめらゐゐなり
（或人云林甲斐守勝正加藤左内河村
吉左衛門等是を司ゐ競ゐゐ）
なりゐゐの又云北の馬場ハ武田信玄入
ゐゐし旧跡なりゐゐ北の方の松の列
ゐゐ是を殖らゐとゐつゐ延宝天和
の頃ふ至ゐ小田原の北条家を攻ゐ時馬を試られ
たゐ小是を的的小的的射ゐ外能ゐ（台命ふより風除れ
大将軍家御代の始ゐゐ國家安全の浄祈禱のゐ浄嘉例とゐゐく
此地ふ於ゐく流鏑馬の式あり形装善尽し美を尽せり（式の図説ハ
穴八幡の別當放生會寺ふ収蔵せり）文章ハ神田白竜子撰ゐる
ゐゐゐり

按ゐ此地ゐ高田と唱へゐるゐハ近ゐ
新六郎ふ領の中ゐ高田内赤沢分同
ゐゐふの江ふ高田ハ千寿成人の間
といへ人も領ゐゐよし同書ゐゐゐり

（小田原北条家の西領役帳ふ太田
道灌の江戸城ふ居ゐ時ハ近ゐ
赤沢ゐ千寿領ゐ
ゐゐゐ）

高さ田と馬ノ場



和田戸山　尾陽君浄館の地なり是を戸山浄邸と云（戸山後ハ改る外山ハ作る）土人相伝ふ此地ハ往昔和田戸何某とやいひし武士の住しかハ今ハ其地ハ和田戸と唱ふ第ハ入ハひ軍勢の大将頼朝卿隅田川より此地に至り和田戸明神（今ハ地ハ和田戸と云）高田馬場の労を休められしことありしとぞ

南尾州浄山屋鋪へ行方の畑の中ハ一條の道あり里老傳へて上古の鎌倉海道なりしとぞ

流觴山　同所戸山と大窪諏訪の森との間をいふ此あたりハ雲雀の名所なり

山吹の里　高田の馬場より北の方の民家の辺を唱ふ此地今向砂利場と号

相傳太田持資江戸在城の頃一日戸塚の金川辺より放鷹を時携へ帰る折ふし急雨頻なれハ傍の農家ハ入く簑を乞ふ内より小女出盛なる山吹の花を折く是を持資ハ捧くるとも詞を発さず持資意を悟るを得ず却く憤を含ミ家ハ帰る近臣ハ事のありさまを物語ハ中ハ一人進ミ出く云く是ハ簑の名きとものたまふ古哥ハ

七重ハ花ハさけども山吹のミの一つだになきぞかなしき（後拾遺集）

と詠せしハ和哥の心を暗く谷へ持資深く恥く後和哥の道を慕ふと云く

（此七重ハ八重の和哥ハ後拾遺集ハ中務卿兼明親王の詠ミを言葉ハに云く小倉の家ハ住ミける日簑ハ借る人のなかりけれハ山吹の枝を折てとハせたまへりけるそハ心もえざりけるハ此山吹の里のあたりハ和漢三才図會ハ俗説弁艶道通鑑ハの中ハ抜ハ此山吹の里のあたりハ和漢三才図會ハ俗説弁艶道通鑑ハの中ハ抜ハ神奈川ハ戸塚の金川と潜ハ実を流れ小溝を今蟹川ハ是非ハ詳ハせざれども是を挙ぐるのミ）

三島山　同所民家の後園ハあり古松四五株繁茂せる樹蔭ハ三嶋明神の祠倉あり相傳ハ右大将頼朝卿此高田の地ハ軍兵勢揃

山吹の里は玉田のる場
より北の方民家の
辺をのぶ昔太田持資
江城ありし比一日
此戸塚の金川の辺よ
放鷹して急雨に遇そ
傍の農家ふり
養をかりんとを
乞ふ時ふ内より
小女出て柯ふく
差りする山吹の
花一枝をそく
持資ふ捧くるに、
後拾遺集ふ七重
八重花はさけとも
山吹のみのひとつ
こふなきそ
うらめしきと

ある暴昭叔主
の和歌をきゝ
て答へくるあて
今も其きを
賞し世よ
偉くく
英傑と
せり

山吹の井

あり一項此御神を勧請なしまつると云ふ此山岸より少しそこの甘泉あり是を山吹の井と呼べり土人或ハ三島明神の御手洗又頼朝卿の馬の冷し場なりとも云ひ伝へたり

高田七面堂　同所道より左如意山亮朝院とのへる日蓮宗の寺ホ安也　甲州身延山ふ属せり　本尊七面大明神の像ヲ身延山の七面ると同木同作なりと云　當寺前山日暉師感得ありし霊像なりとの縁起云延山第二十六世日境上人霊告再三ふ及ぶの後亮朝院日暉師ホ是を授与す依日暉師此地地五明村よ草庵を結ひ此本尊を安也然ふ慶安元年の春荒蔺山ホ於く社地を賜ひ七面堂を造営せしめ御武運長久國家安全の御祈禱所ホ命せらる　寛文十一年荒蔺山の地ハ尾陽公の山荘となりし為今の地ホ迁ふ　同二年日光御社参あらせられし時御守刀ヲ以て獲りおとせし一部一巻の法華経を献しまつる　其後御帰城の後奉く御経の表題目の七字をきん彫しめたまひ御経の

高田七面堂朝日櫻

しその傳

紙の裡より七面大明神と淸深筆ありく淨譚をくく書添られく

當寺ホめくとくり　北の方　霊宝と仰きくむとくふ

世尊堂　堂内ホ釈迦如来

朝日堂　朝上人の像を安也

日養卿の基ゆくく

日朝上人常よ眼病を患ひくく宗祖日蓮大士の像を日朝上人ハ作

乗院日了上人くり度更を感むとくり今當寺より出る不の眼病救護の霊符を好くく現益を蒙る者

朝日櫻　同しくく常唱堂の向右の方ありといふ

朝上人の愛樹ありし

佛の橋　同しく北の方上水川ホ架せる長十二間余あり昔ハ枝橋ありし近頃ハ土橋とあるより誤りて次にあるす　此辺の蛍ハ形大よ此橋を姿見の橋と思ひ

しそ光り他ホまさるれを

姿見の橋　同しく北の方よ架せる小橋を号く昔ハ此橋の左右に池ありく其水浅く流も迅故よ形人覗くれハ鏡の面ホ相對めく水面湛然くる如ホ名とも或ハ寛永の頃

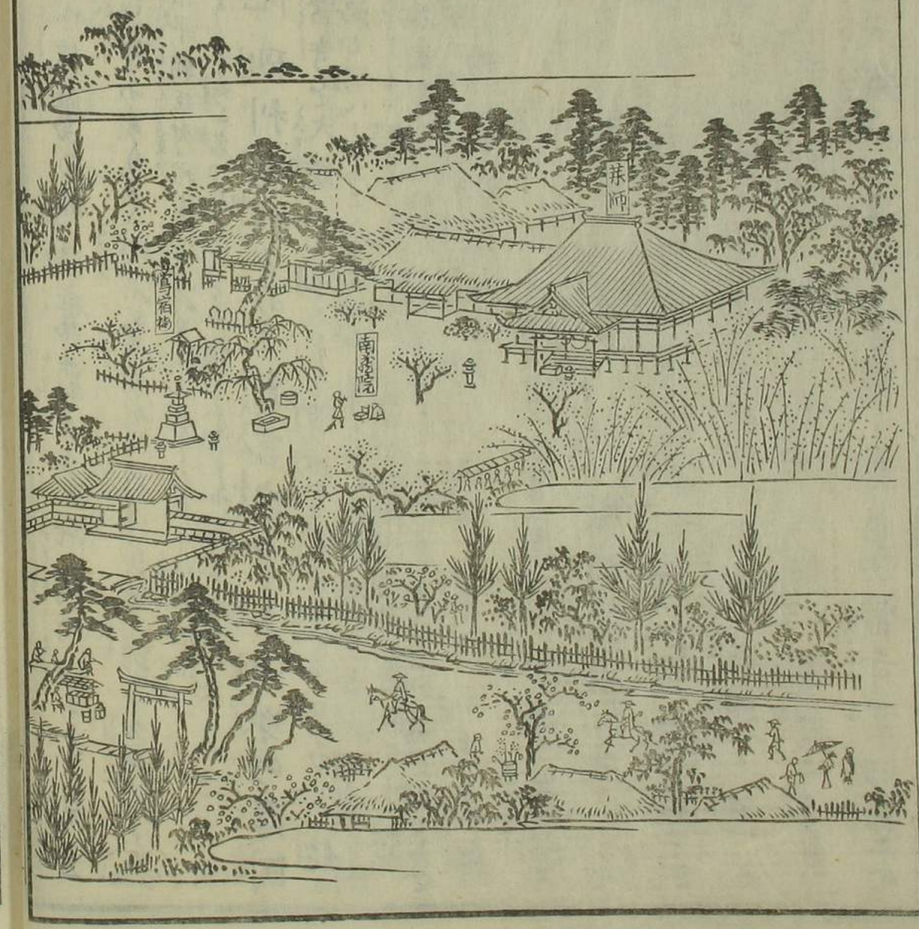
大樹此地へ放鷹の時ハ舊鳥翔くる此橋の辺ホく見出のひくく　台命ありく此名ありとも

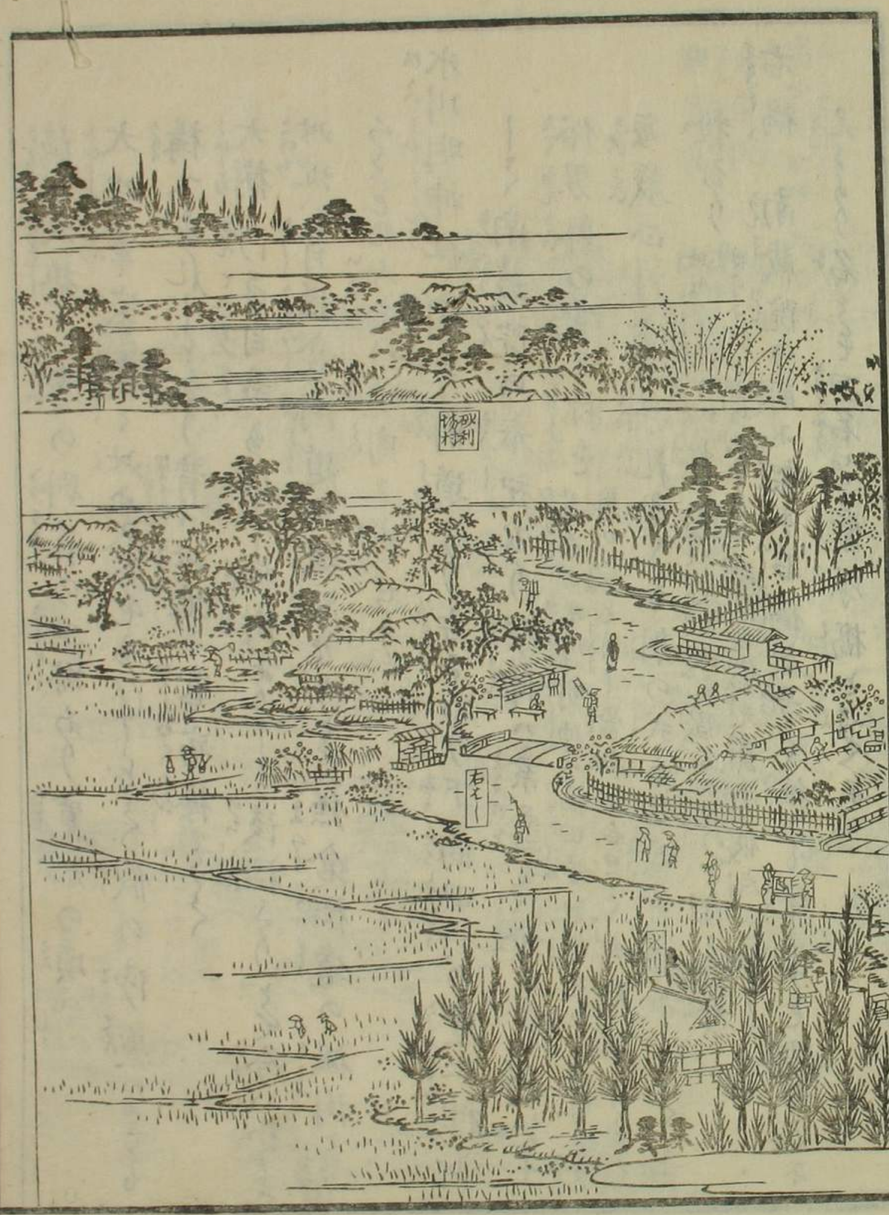
大鏡山南藏院　砂利場村よあり真言宗ゆくく大塚の護國寺よ属也　當寺を大鏡山と号く昔此寺前ホ大池ありく鏡の如ホ清水ありしとも

橋ありしも是ハ大樹放鷹の頃當寺の垣根を此所彼所より分りせるひしを悉く埋ハ昔しより斯ハハ所ホ異名とせしとも

佛ハ聖徳太子の作ゆくく開山ハ圓乗比立と号く本尊某師念持佛なりとくく養和年間の頃迫ハ奥州平泉よありしを圓乗比立諸國遊化の時霊夢を感し彼地の農家に是を得くく此地よ安置をくり本堂外陣よ掲ける薬師堂三大字の額ハ蓮華光院大僧正道怨の筆ありく總門の額ホ大鏡山と書せしも同し筆ありく當寺某師堂の

高田
南蔵院
鶯宿梅
氷川社
右摑





接ふ大橋立慶の別荘の旧跡あり寛永の頃ハ大将軍家度々此ふ入らせ給ひ假の御殿なども構へ置れしとあり昔ハ此地ふ鶯宿梅ありしが大樹枯て自裁ありしより梅樹ハ枯失ぬ此地ハ昔鎌倉街道の通路なりとそ鎌倉街道の楓樹と号らるゝもの今その境内よ存せり

氷川明神社　同寺前道より左よりあり下高田村の産土神なり

〽南藏院の奉祀なり祭神ハ素盞烏命ふして是を土俗男躰の宮と称し落合の氷川明神ハ稲田媛を祭れりとあり女躰の宮と称し當社を合せ祭る夫婦宮とす

毎歳正月十日祭礼ありく奉射の式あり甚賀扑ふ〽古雅あり

右橋　南藏院の前ふ架せる石橋を号く往ふも還るふも右の方ふ此れる流の川より鬼子大黒と唱ふるものを産す此秋ハ水中ふ住る虫の化せる由近江古繁先生の雲根志よりとり名ともに旧名を蒙塚橋と号く

氷川明神社　同申酉の方田島橋より北杉林の中にあり祭神奇稲田姫命一座なり是を女躰の宮と稱せり同所茱王院持なり　高田の氷川明神の祭神素盞嗚婦の宮と土俗あやまれり在原業平おひ二条后の霊を祀るの碁非なり此辺ハ七曲坂　同所より嵐山の方へ上る坂をのみ曲折ある故ニ名とス此辺ハ下落合村ニ属せり

落合土橋　同所坤の方上落合より下落合へ行道ニ架ス土人云田島橋より一町そこそこ上ニ玉川の流と井頭の池の下流と會流そこそこ水あり此故ニ落合の名ありとぞ

按ニ北条家の不順役帳ニ奥津加賀守太田新六郎石領の中ニ江戸落合の名をかくへり長野六郎分又鈴木分の地を領そこそこあり神田の上水を助水とせしハ尤後世ハ専ら開く来れるハ此水道へ玉川の上水落合の名の発こゝ此両つの上水落合の義まを附會こと知へし

此地ハ蛍ハ名あり形大ニして光りも他ニ勝れり山城の宇治近江の瀬田も越こゑのみにふ乱ニ光景最奇とを夏月夕涼多し

奥州橋　同寺の乾の隅ニ架も土橋をいへり往古の奥州海道ニして水神の社の上通り黒田家の邸園ニ今も松の列樹あるハ其旧跡なりとぞへ

宿坂関之旧跡　同北の方金乗院とぞへる密宗の寺前を四谷町ニ方へ上る坂口をのみ同一寺の裏門の辺ニ絶へ平地あり土人ハ此地ハ昔の奥州街道ニして頃関門のありし跡ありとぞへ

水花開耶姫社　同所小坂の中腹ニ祀ニ此坂を清玄坂と唱へ誤伝せしふ冨士浅間宮の祭神ハ木花開耶姫命の六字ハ水戸黄門光國卿の親筆なり今別當金乗院ニ侍ニ

藤杜稲荷社　同所岡の根ニ傍ニあり又東山稲荷とも称せり霊驗あらたなりとぞへ頃年落合村の茱王院奉祀を

泰雲寺古事

黄龍山泰雲寺　同所上落合より黄檗派の禅林なり花洛萬福寺を属も如意輪観世音の像ハ天然の石仏なり

當寺の土中より出現ありしとの事なり開山ハ白翁道泰和尚と号し木庵和尚の法嗣なり二世ハ了然尼なり三世ハ了然尼の師なり

しで東福門院の侍女なり鐵禅和尚の法弟とある當寺を奥後し千山和尚の師鐵禅和尚を中興の祖とも惣門ハ掲くるなり額ハ泰雲寺とあるも黄檗木庵老人の書なり當寺第二世了然禅尼ハ泰雲院元惣和尚と号し性ハ葛山氏駿州富士の大宮司葛山十郎義久の子同長次郎ともいふ女なり長次郎ハ京師泉涌寺の前ハ閑居し茶事を好み古画を叢話ハ尾張國人とあり又了然ハ植山とあり可考鑒定も亦一項世よ画見の長次と称せられしとあり松屋十巻ともいふ儒臣の母ありとあり可考

後仕を辞し家ハ帰る

人あつく婚儀を整へ松田何某ともいふ医生の許へ嫁せしむ

新著聞集ハ三十余歳の時男女三人の子を産もとあり琴野後ハ葛山長十郎と

江戸砂子ハ東福門院ハ仕へせし事記せり

江戸砂子ハ松田女房ありしと門鬼覚御の後尼ともいふ

晩翠

藤森稲荷社
東山

一枚岩

落合の近傍水田上水の白堀あり〳〵一堆の巨巌水面に聳れ蓝水巌頭より瀉れて飛瀑も此水流れ鳥居ヶ淵屋ヶ渕等その服に名多し

竹之内

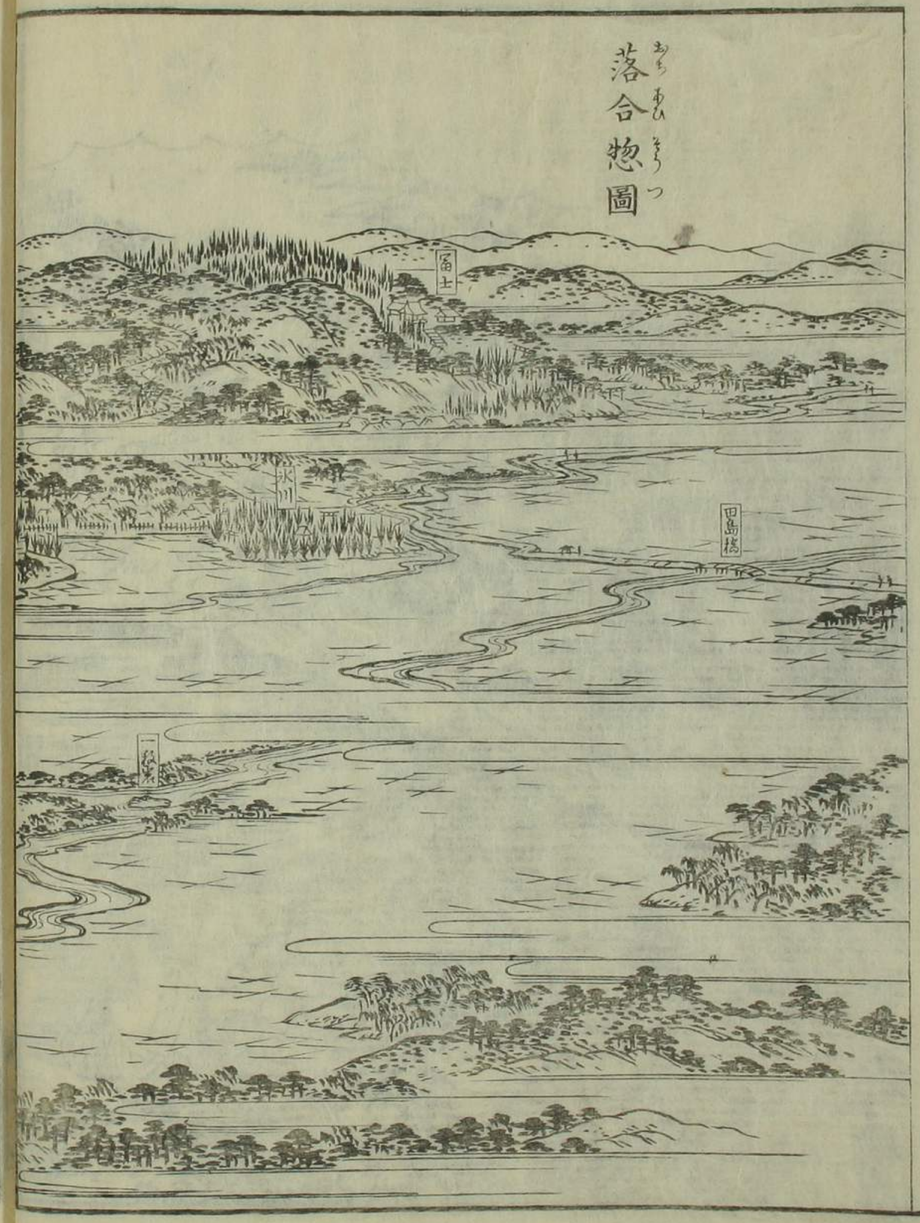
月のころまゐて

秋夜

出趣

あり

落合惣圖



永正十三年正月
後奈良院
御撰何曽

秋の
田の
かりほの
いほりの
けしきより
蛍

上水川

落合螢

此地の蛍狩、芒種の
候より夏至の比迄と
賞ぜし事古歌に
もろこしもわれも
隔てぬ夏の夜の
飛ぶ火あまつ星
とよめるやまと
唐人もろともに
遊遨して
壮観なり
涼風
しきりに入り
清く月朗かなる
よひく
風絶えてなびく
蚊遣火ひめくも
一興なり
いそん

永川

田鴻嶋

名つく林家の門人やゝく博覧の後夫ゟ告ゝく薙染ゝゝ臨済黄檗等ゟ
紀州亜相ゟ召る諸禅林ゟ入ゝく参道怠ることなく務竟ゟ天和元年辛酉の冬大江ゟ
下り白翁和尚ゟ見え法を求んとそれとも新著聞集ゟ白翁和尚井上大和庾の許まありゝ
紫の一本ゟを白翁和尚ハ水庵の徒弟ゟゝ和尚ゟ美貌なるを以ゝく許
ゟゝ項駒込ゟ住れゝとありゝさも依了然尼火攻を焼ゝく自ら面皮を焦そこゟ於ゝく和尚も
尼の懇志を感ゝく大法残ることなく附与せゝる時頌を賦ゝ

和歌を詠ゟ

昔遊宮裡焼蘭麝　今入禅林燎面皮
四序流行更無跡　不知誰是箇中移（三又如此上アリ）

ゟゝ後大悟ゝ晩年ゟ当寺を草創も白翁和尚化寂の後遺骨を当寺ゟ収め石塔を営ゝ建ゝく自ら銘文を製ゝ
和尚をゝく当寺の始祖と称ゟ白翁和尚の肖像ハ本堂の左ゟあり右ゟ了然の像を置ゝり

自ら二代と称せり（頃ハ尼寺ありと云ハ尼寺の前ゟありと云ハ当寺のゟを云歟）

元年辛卯九月十八日既寂を号ゟと又江戸砂子ゟ了然尼市谷の末ゟ尼寺を建る寺の額も此尼の筆跡なりとあゝ

開山白翁道泰和尚墓

開山師翁着本寺第二代
宗說共通機用殺話孤危嶮峻不可湊泊一朝因事
辞三州竹篦山嘉遁武陵大林庵未幾羅病書偈坐
化實天和二壬戌年七月初三日也總等不堪悲歎
如法茶毘但恨無開山所因伸卑誠於官家終蒙
許可再興廢院改黄龍山泰雲禅寺以為開山鼻祖
奉酬法類之恩之令也建骨塔遺萬世眷宝永八年
卯年七月初三日

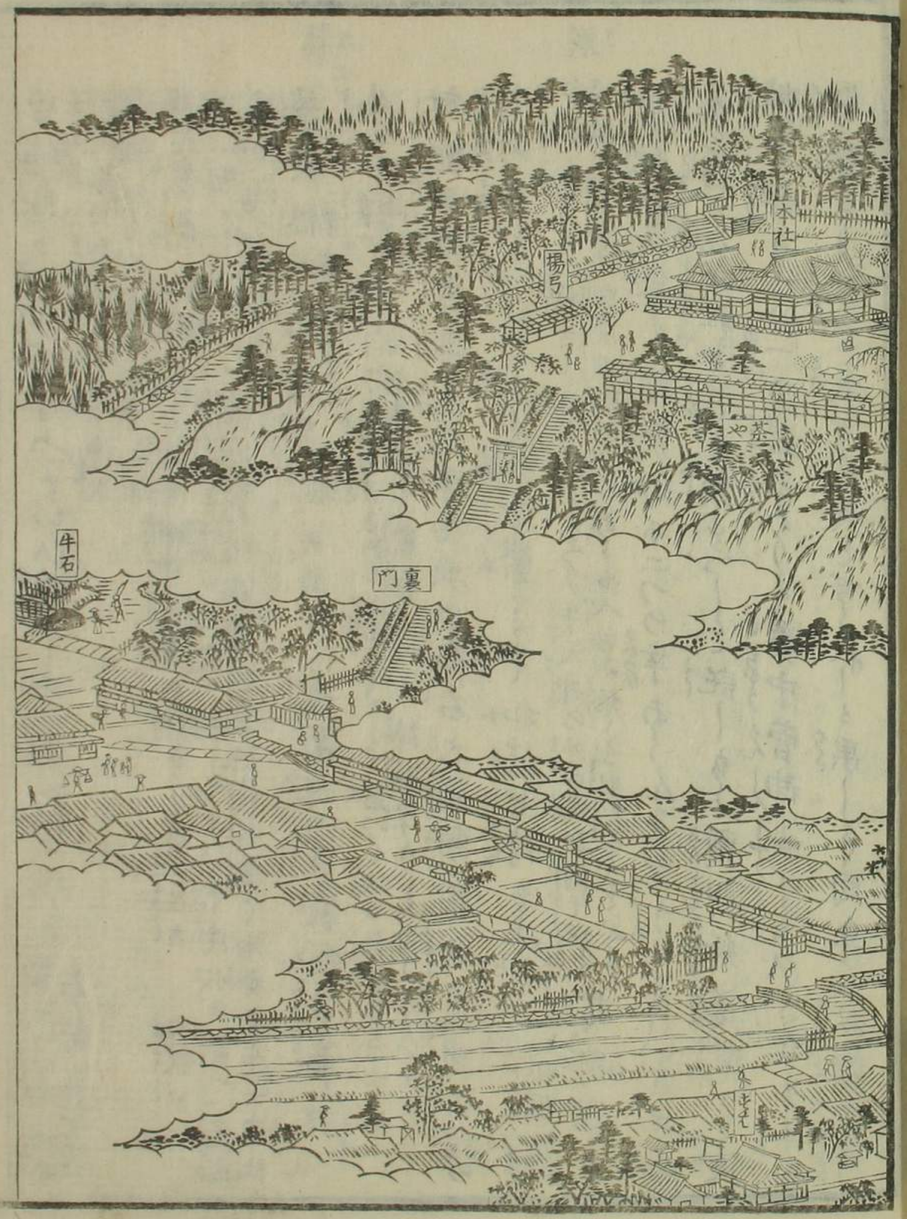
當山第二代傳法弟子了然元總百拜識

蘭塋井先生之墓　同（卵）塔の中ゟあり井上氏名通照字子叡嘉善と称を岡山侯の儒臣ゝり

牛天神社　小石川上水堀の端ゟあり一ゟ金杉天神とも称を此地を金杉と唱ゟふよりゝく号ゝく金杉古ハ金曽木ゟ作る小田原北条家の所領役帳ゟ此地名を注せり金剛寺の条下ゟ詳ゟ合せ考ふへし

泉松山龍門寺　別当ハ天台宗ゟゝて泉松山龍門寺と号ひ神躰ゟ

牛天神社
牛石
諏訪明神社



菅神自ら刻造し給ふといひ傳へ長六寸あり當社の旧地八社地より東の方今水府君の邸中まで入り神木なる紫松も囘あよありと云

降魔狗　社壇を守む鎌倉佛師運慶の作なり往古禁制よありしを江戸の大城へ移されしを讃州の太守賴常君當社崇敬厚く元祿五年壬申社壇重修の頃寄附せられしとぞ

華表　鳥居の額ハ賴常君寄附あり　額　天満宮　近衛内大臣家熙公筆

牛石　東門坂の下り口陽の方にあり詳なり南向亭云く賴朝公の腰掛石なりと

社記云往古壽永元年壬辰の春右大將賴朝卿東國追討の時此所の入江の松ゐ舩を繋ぎ和波を待ち給ひ今の飯田町の東入堀のあたりへ續きたりしとぞ又同ゐ坂売坂抔いひそあるも入江の名の殘れるなり旧称ありとぞ

菅神牛ゐ乘し賴朝卿ゐ二つの幸あらんすをかしこみ武運滿足の後ハ必小社を營み報ひ奉らんと誓ひ給ひ傍を顧みハ一の盤石ありて夢中菅神乘しまし給ひ髣髴として依て是を奇異とせられ果して同年の秋賴家卿誕生あり又翌年癸巳の夏ハ動もすれば平家悉く敗亡ハ其報賽とぞ

元暦元年甲辰此地ゐ勸請ありて神領等寄附ありしと云云　又江戸名勝志ゐ草紙ゐ北条氏康兵を起されし頃夢中ゐ菅神牛ゐ乘しまし降臨ありて此地ゐ天満宮を勸請なしまゐらせしを後家臣遠山丹波守當社を修營せりと上の社記ゐ諏訪明神社　同所上水堀より南の方諏訪町ゐあり

方命なり相伝ふ明徳元年庚午天神の別當梅本坊來觀法印靈告ありより勸請なしまゐらせしと云云土人云此地旧名を忍ぶの森と云とかや梅本坊ハ今の竜門寺是なり

慧日山金剛寺　同所上水堀の端ゐあり曹洞派の禪刹にして駒込吉祥寺ゐ屬せり　昔ハ臨済宗なりしを永正六年己巳曹洞宗ゐ改めしとぞ

天目忠峯普應國師中興ハ用山和尚とかや

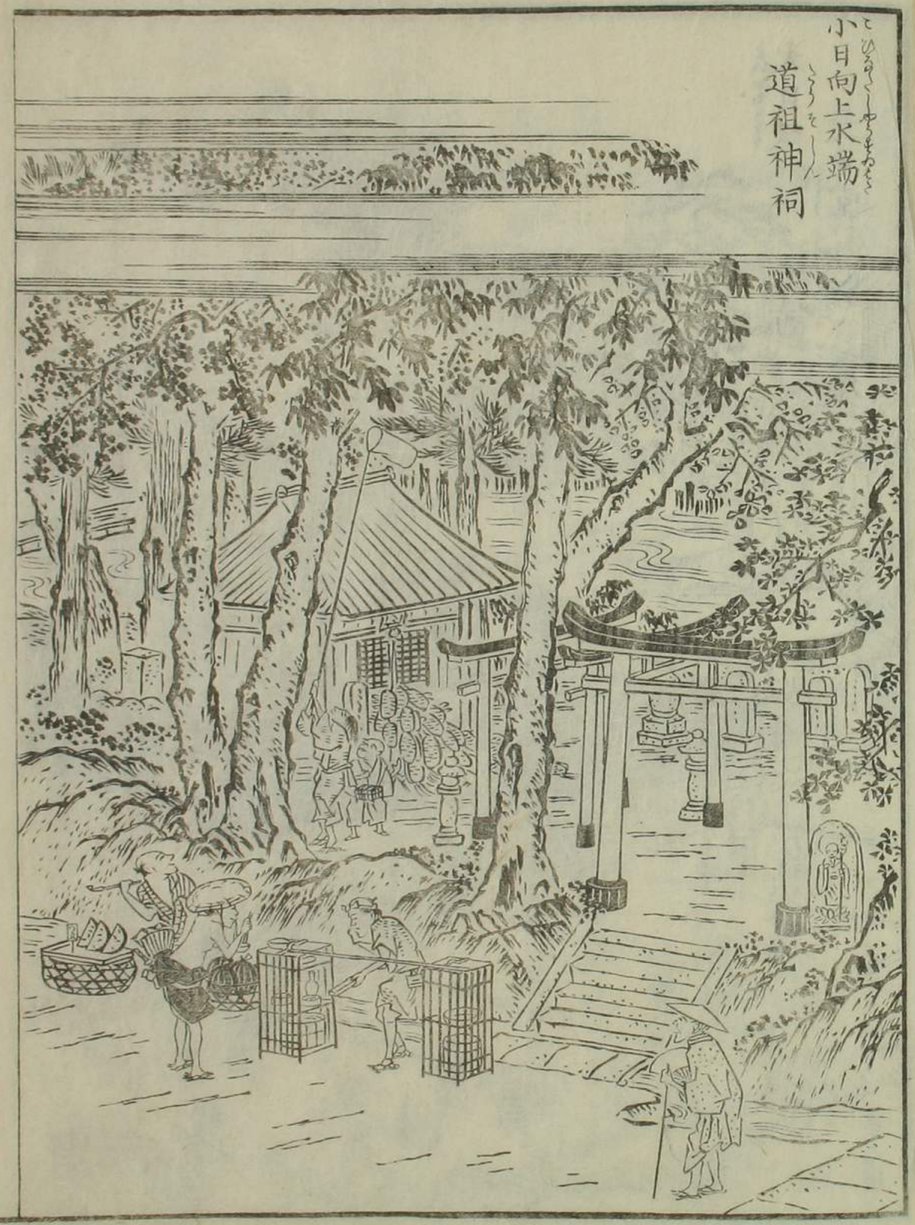
鎌倉右府將軍實朝公碑　後山の半腹ゐあり永正の頃造立せし碑なり其碑面ゐ誌して云く

恵日山金剛禪寺者始波多野中務忠経為鎌倉右府將軍實朝公菩提建長二庚戌年建立相州波多

氷川明神社

本法寺

金剛寺



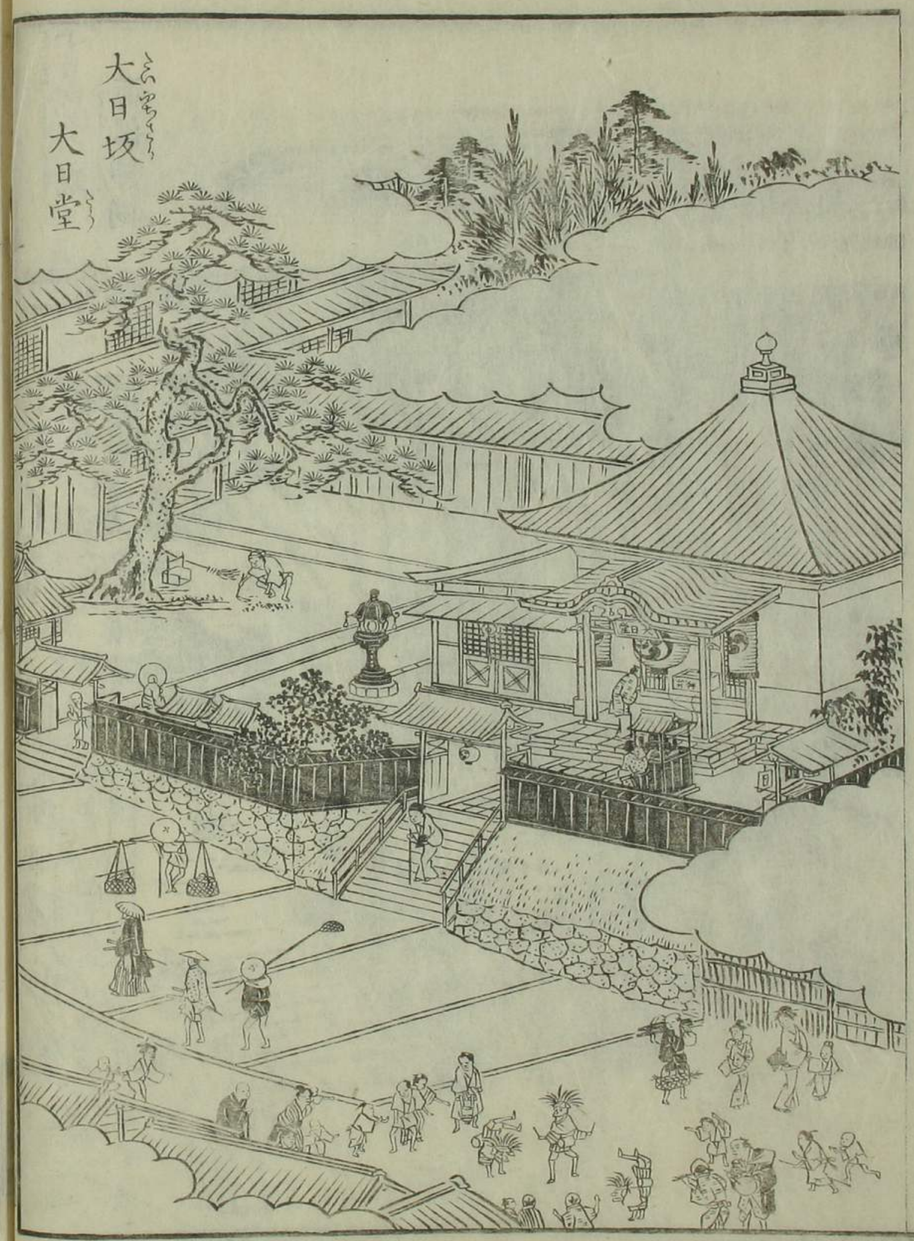
小日向上水端
道祖神祠

野莊田原村後江戸下野八道道心發寺於武州江戸莊小日向鄉金杉村亦其後文明年中太田左衛門入道靜勝軒春苑道灌重興焉昔日者臨濟宗也其時之開山普應國師二代巨舟和尚中興叔悅禪師永正六己巳年改曹洞宗者也維時永正十癸酉年七月十日金剛現住比丘實山叟記之

金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪定門

兼久元己卯年正月二十七日地藏堂（同一山の頂にあり）（後ハ天竺佛ヲ安置ありしと云）（鎌倉円覚寺北ノ地ヨ移シ一宇ヲ建立ありしヲ後金剛寺ト共ニ此地ヨ移シ）

當寺ハ波多野中務忠經（東鑑ニ中務丞忠經ト云名あり）（按ニ考ルニハ波多野中務丞忠經五位下忠經ノ改忠經ヨ）鎧倉將軍實朝公の菩提を弔ひむる爲建長二年庚戌相州波多野莊田原邑ヨ造立せしの精舍ヤヽ後江戸下野入道心佛今の地ヨ迁せしよ又文明年間太田道灌當寺を重修し叔悅禪師ヲ請ヽ住持ニむ（梅花無尽藏傳長老の注ヨ叔悅禪師ハ道灌の伯父ありと云云）故ニ實朝公及ひ道灌の靈牌ありひニ肖像等を置徳門の額ヨ慧日山と書せしハ黃檗即非の筆あり（白石先生云ク梅花無尽藏）



文明十七年乙巳東遊の詩の注よ芳林院よ出のく李太白の墨蹟を看る同く其下よ芳林院今金剛寺と号くとあり按よ北条家の分限帳ふ島津孫四郎北品川小石川及ひ金曽木内法林院領を記しく法林院よ作る又小田原実記ふ金剛寺分ぎの地を須ちて大永四年正月十三日北条氏徳ふつる条下よ其頃當所芳林院の孤舟和尚来くく萬里居士の江亭記を捧ることまく孤舟和尚ハ別金剛寺と法林院ハ別るく寺院巍ことくく首座主閣侍者沙弥喝食維那納所行者火番をとありくく祈祷上堂参禅の式勤め怠らもくく堂塔も壮麗くくしくとあり

道祖神祠　同上水堀の端金剛寺より二町ともと西よあり明徳年間の勧請ありとものあり別當竜門寺よ當社勧請の碑と称するものあり

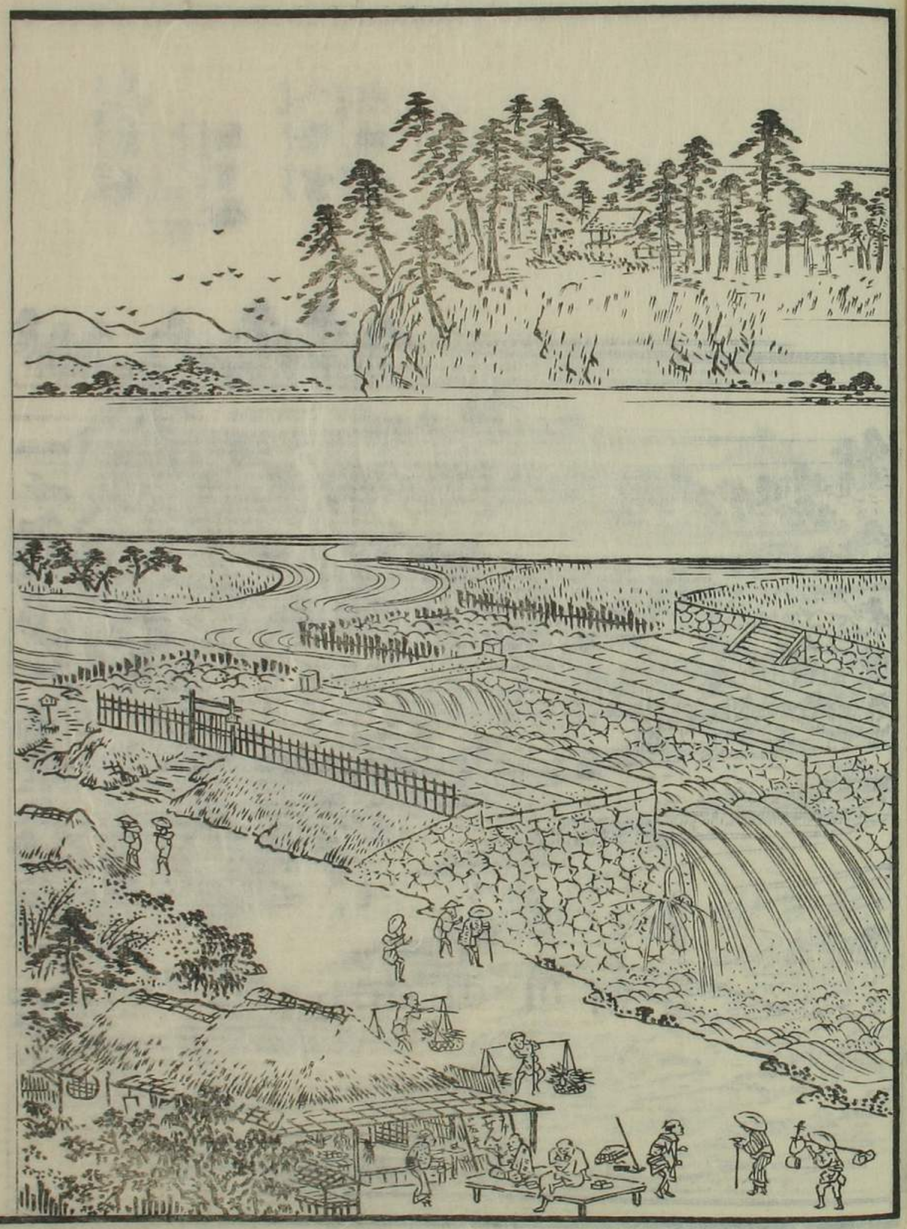
氷川明神祠　同西の方二丁餘よを隔てく是も上水堀の端慈照山日輪寺とものふ禅林よあり祭神ハ當國一宮よ同し勧請の始久しくそありて中古太田道潅の再興ゆくく小日向の鎮守

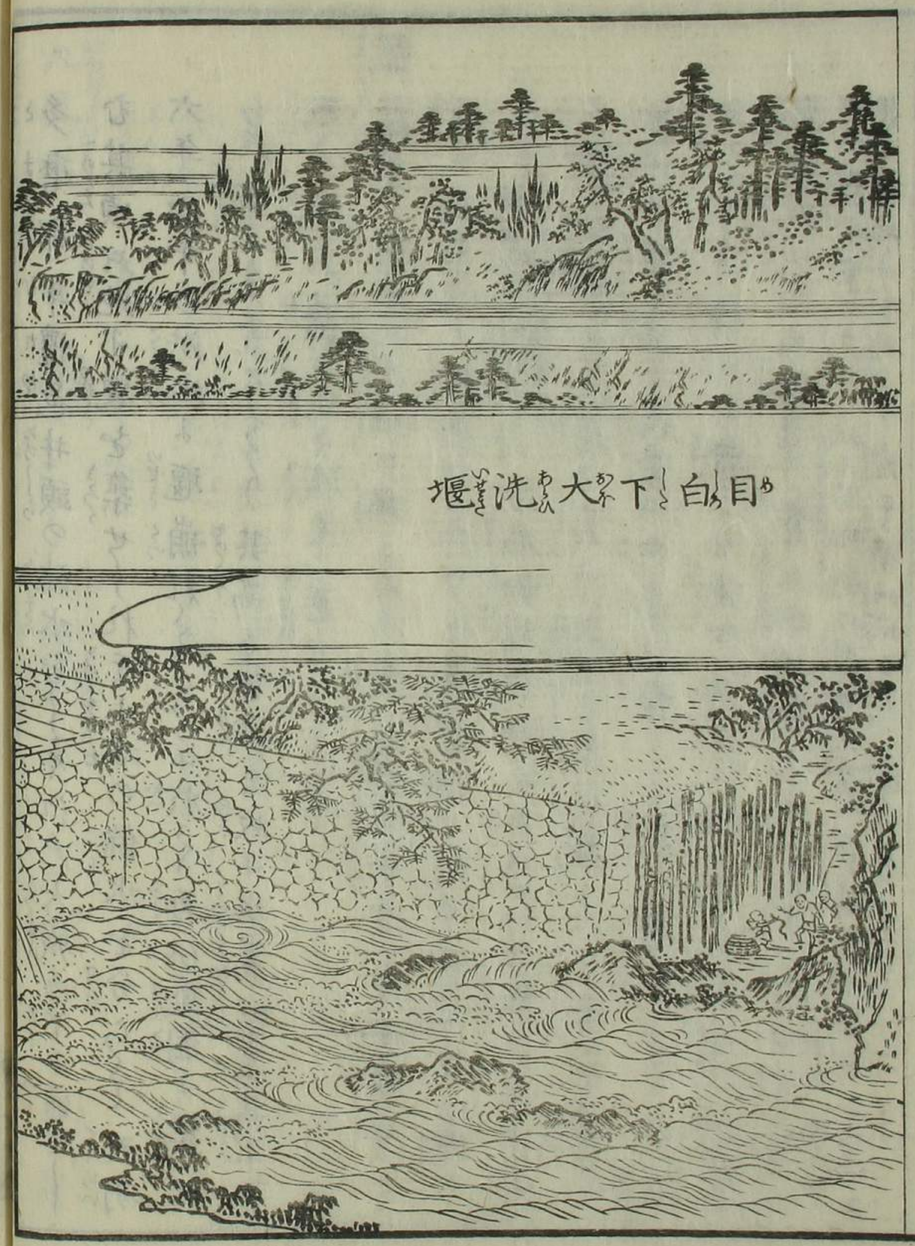
なり祭礼ハ四五九月の十七日あり　當社ハ元亀の年号ある庚申待供養の古碑あり

大日堂　同西の方大日坂ハあり天台宗ゆゑ覚王山妙足院と号ク相傳ふ本尊大日如来ハ慈覚大師唐より携ゑ給ふの霊像なり往古ハ叡山の中ハ安置ありしを元亀年間織田信長公門を襲ふ頃堂宇悉く兵火ハ罹りて灰燼となるされと此本尊ハ火焔を遁れ出近江國兵主明神の社頭深林の中に移ゑ給ひ後夜〳〵瑞光を放ちゆゑ藤原氏某感得し〳〵其家ゟ移し奉ると傳ふ旦暮供養を怠りなし然ゟ此人嗣子あるを憂へ〳〵祈求し〳〵竟ハ一女子を儲く長ずるゟ及んで紀伊亜相頼宣卿ゟ仕へまつり後落飾して法善尼と号ク此尼霊夢を感ずるの後當寺を開きさらに安置し奉りし〳〵

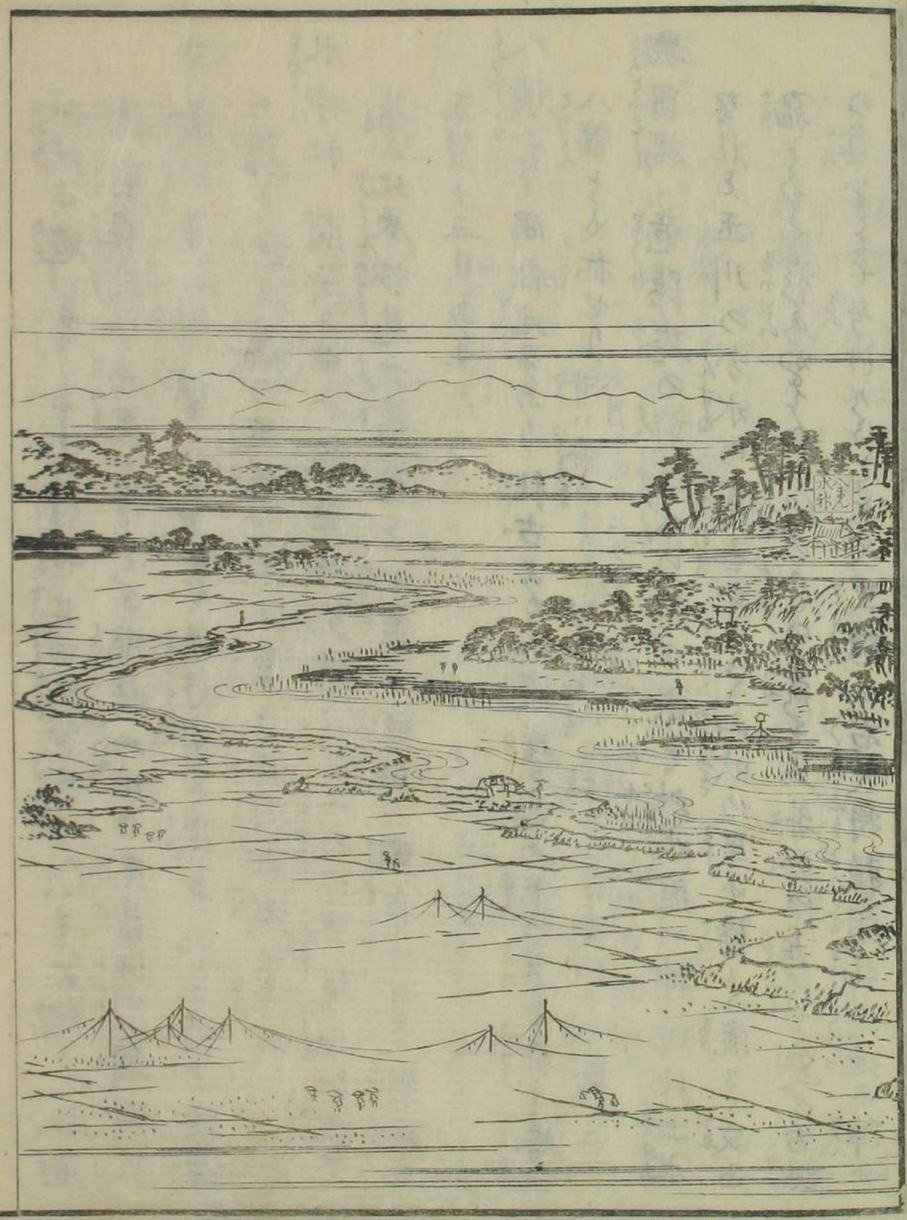
大洗堰　目白の涯下ゟあり兼應年間　嚴命ゟより當國多磨郡牟禮邑井頭の池水を〳〵江戸大城の下ハ通せし〳〵む其頃此地ハ堰を築せられ上水の餘水を分らる天明六年丙午の洪水ゟ堰崩れ〳〵ハ於く再ひ堅固ゟ築せられ古ゟり壹尺ほり其高さを減を故ハ水嵩時を其上を越く流れ落ゝ損ずる患なし〳〵

龍隠庵　同所上水堀の端ゟあり昔ハ真言宗ゆゑ安楽寺と号く故ありく元禄十年丁丑黄檗宗ゟ改め洞雲寺の持となり（洞雲寺ハ音羽町八丁目の西の裏ゟあり）平石和尚住持を年ゟるハ正観世音慈覚大師の彫造とゟ庵の前ハ上水の流れ横〳〵り南ゟ早稲田の耕田を望み西ハ芙蓉の白峯を顧〳〵る東ハ堰口ゆゑく水音冷〳〵とし〳〵く禅心を澄しめ後ハ目白の臺聳へ〳〵り月の夕雪朝の風光も又佳〳〵り昔上水開発の頃芭蕉翁（芭蕉翁通称松尾甚七郎と甚七郎此上水堀割の時藤堂家へ普請のゝを命せられふ藤堂家の士〳〵り此地ゟ日く遊〳〵と〳〵




白目ヶ下大洗堰

芭蕉庵
五月雨塚
駒留橋
八幡宮
水神宮



此地ゟ遊行まで一ゟあり 後世其旧跡を失ひんことを歎き白兎
園宗瑞及ひ馬光なとゝ俳師此地の光景江州瀬田ゟ
義仲寺ゟ髪髯ともに五月雨ゟ隠れぬものゟ瀬田
の橋とゝろく翁の短冊を塚ゟ築き五月雨塚と号く

水神社 同所ゟ並ゟ龍隠庵別當ゟり上水の守護神を祀らん
ゑゟ北辰妙見大菩薩を安置を祭神ハ岡象女ゟり 祭礼を

五月十五日ゟり

八幡宮 同社地ゟあり 往古ゟりの鎮座とゝろゟ下の宮と称ゝ椿山
八幡とも称せり 昔ハ椿多ゟりしゟ 椿山と号くと云祭礼ハ毎歳
八月十五日上の宮と隔年ゟ徃ゟを洞雲寺奉祀を

駒留橋 竜隠庵の前上水の流ゟ架を此水流ハ神田ゟ上水
なれと玉川の分水の落合ゆゝく山吹の里ゟ傍く流ゟ故ゟ
弥とゝろく狛ゟゟん山吹の蕊そゟ井ゟの玉川とゝろ古詠
の意をゝそ号けるとそ又里諺ゟ右大将頼朝卿此地ゟ陣せ

られ〳〵頃雪の朝此川傍ゟを駒ゟ打乗りく眺望ありく〳〵奥
尽き此橋の辺ゟり帰るをゟ駒留橋と号くとゝろ詳
なら〳〵 同所幸神の社記ゟ駒留橋 此橋を云なるん獲其条下をゝろ

拾穂軒北村季吟翁別荘旧地 同所目白の墓 松平大炊庵の庭中ゟ
ありとゝろゟ山の井と称するをの今ハ埋もれく名のみを存せり
俳書ゟ増山の井とゝろありり 此翁此地ゟ閑居ありて著述
ありりく故ゟ此名ありとそ此辺時鳥の名所ゟ外よりも
早〳〵とゝろり 按ゟ別荘の名を疏儀荘とゝろ
翁ゟ別荘を求めとゝろ

但つゝ如斯名とゝろ地ゟあるとゝろゟ多くあるをゝそ 季吟

幸神祠 同所東の方道を隔て右側ゟあり一ゟ道山の幸神
或ハ駒塚社とも号く祭神猿田彦大神なり庚申の日を以く
縁日とそ社司ハ宮城島氏なり相伝ゟ徃昔此ゟ豪民

道山幸神社

あり　今も此辺を長谷の龍蓋と云　金の駒を塚ふ築篭榎樹を栽くかゝふ幸神を勧請す　當社の神体ハ昔此麓入江なりし頃其水中より出現ありしとそ今も狢全躰ふ坂売の類付てありと云

海道なりし故ふ道山の号ありとそ中古大ふ荒廃しく神木の榎の下ふ纔の叢祠のミ存せしを乍頃の神主政泰なる者今のやく祠を営ミ建るとの

里諺ふ云延宝里民是を谷と唱ふ又橋の上より其駒の影水中ふ映るを駒留橋といふと数度なり　迫ふ時ハ山谷ふ隠る其谷を駒影方をいふとなり

堰口の涯ふ臨む　真言宗ゆーく長谷小池坊の本寺とす　不動明王の霊像を目白不動堂　同所東の方よあり

東豊山新長谷寺と号ス　弘法大師の作徳だの額東豊山の三大字ハ南岳悦山の筆ニ縁起云弘法大師唐より帰朝の後羽州湯殿山ふ参篭あり

一時大日如来忽然と不動明王の姿ふ変現し滝の下ふ現ぜり大師ふ告て云く此地ハ諸仏内證秘密の浄土なれハ有為の嶽火を故ふ凡夫登山をゆるさゝる今汝ふ無漏の上火をあたふ

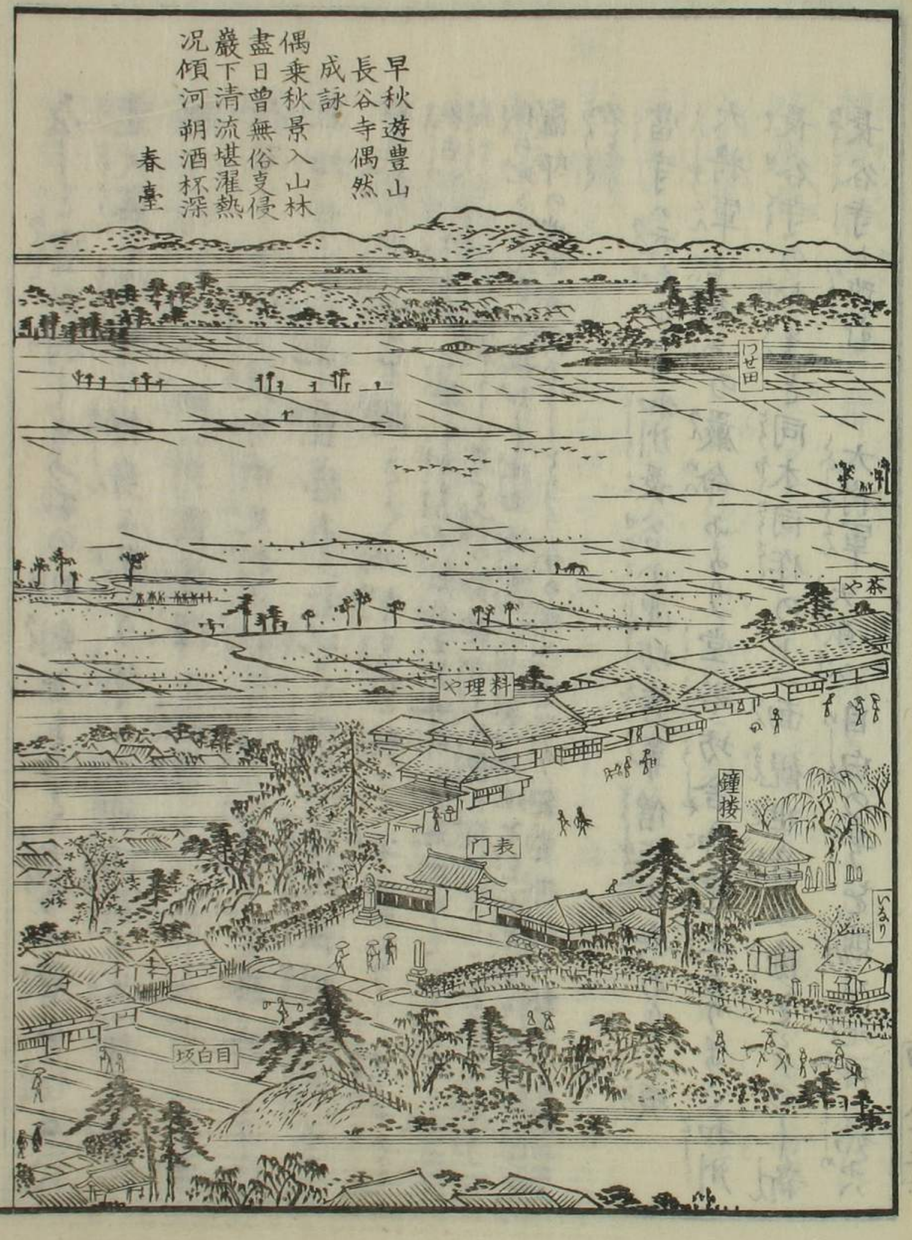
目白不動堂

境内眺望
勝れたり
雪景右に

早秋遊豊山
長谷寺偶然
成詠

偶乗秋景入山林
盡日曽無俗客侵
巖下清流堪濯熱
況傾河朔酒杯深

春臺



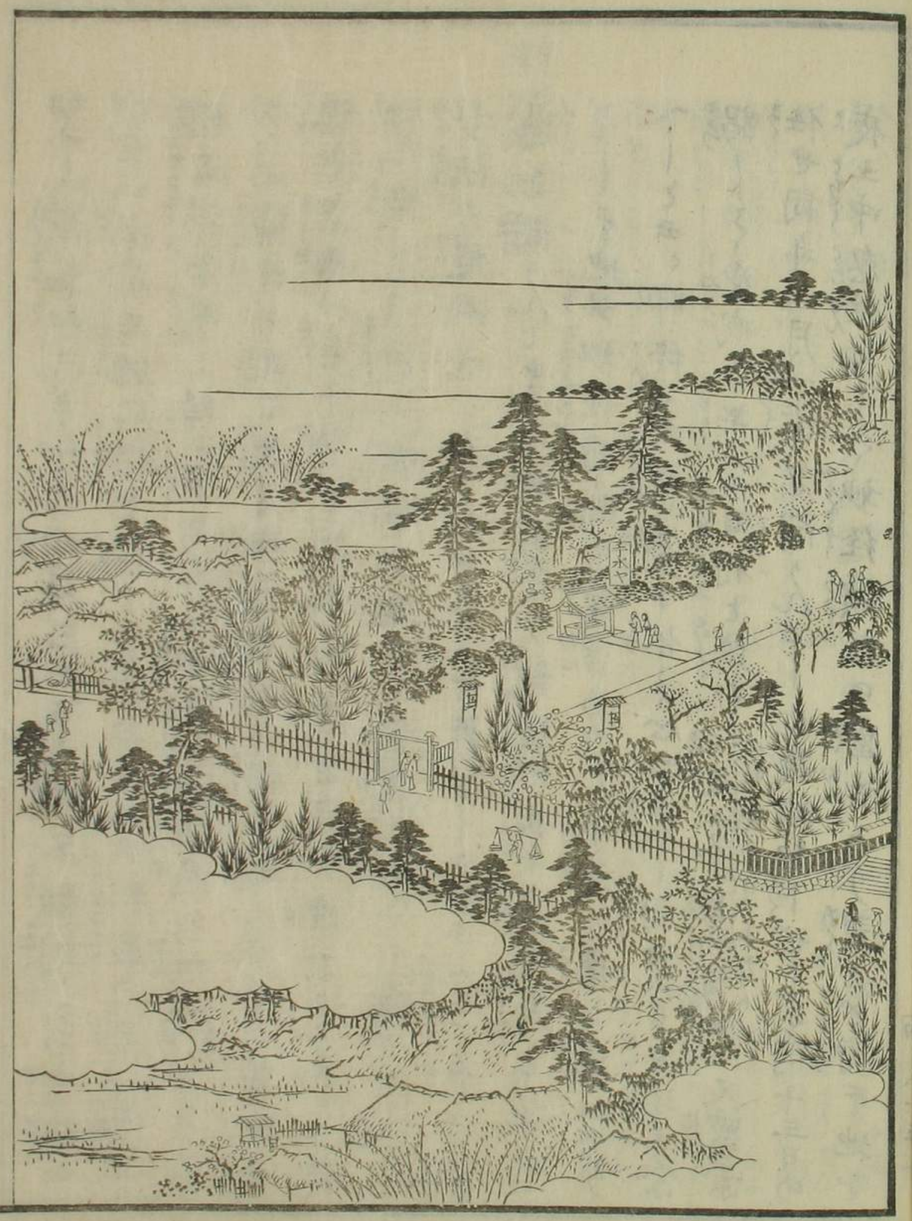
乃ち宣ひ持しの利剣をそつく左の肱を切るに
霊火盛ん燃出く佛身を充り依く大師面前ん出現の像二
軀を摸刻し一躰ハ同國荒澤ん安置し一躰ハ大師自ら護
持なしのみ帰後野州足利ん住せる沙門某是を感得しく
奉持せしろ一年霊感あるを以く此地の住人松村氏某ふそ
かり竟よ一宇を開くく此本尊を移し安置なしまるとそ
往古松村氏夢感ありしかハ翌朝ん有
某ふそ途中嵐のふうーあつおの裂當山の榎の枝ふかるる不動尊を野州より此地ふうつしまつり一頃沙門
緣の地渡辺石見守某へ此地をとた石見守そのとよ任せそ
藩邸の地を寄附ありしとより今の境内是なり裂掛榎と称もるハ則此裂
名とせり
當寺ハ元和四年和州長谷小池坊秀筆僧正中興あり一頃
大将軍台徳公の嚴命ゆより堂塔坊舎ふ建立ありまくと和州
長谷寺のおそと同木同作の十一面観世音の像をうつし新
長谷寺と改む
大将軍大猷公目白の号を賜ひ元禄の始ふハ

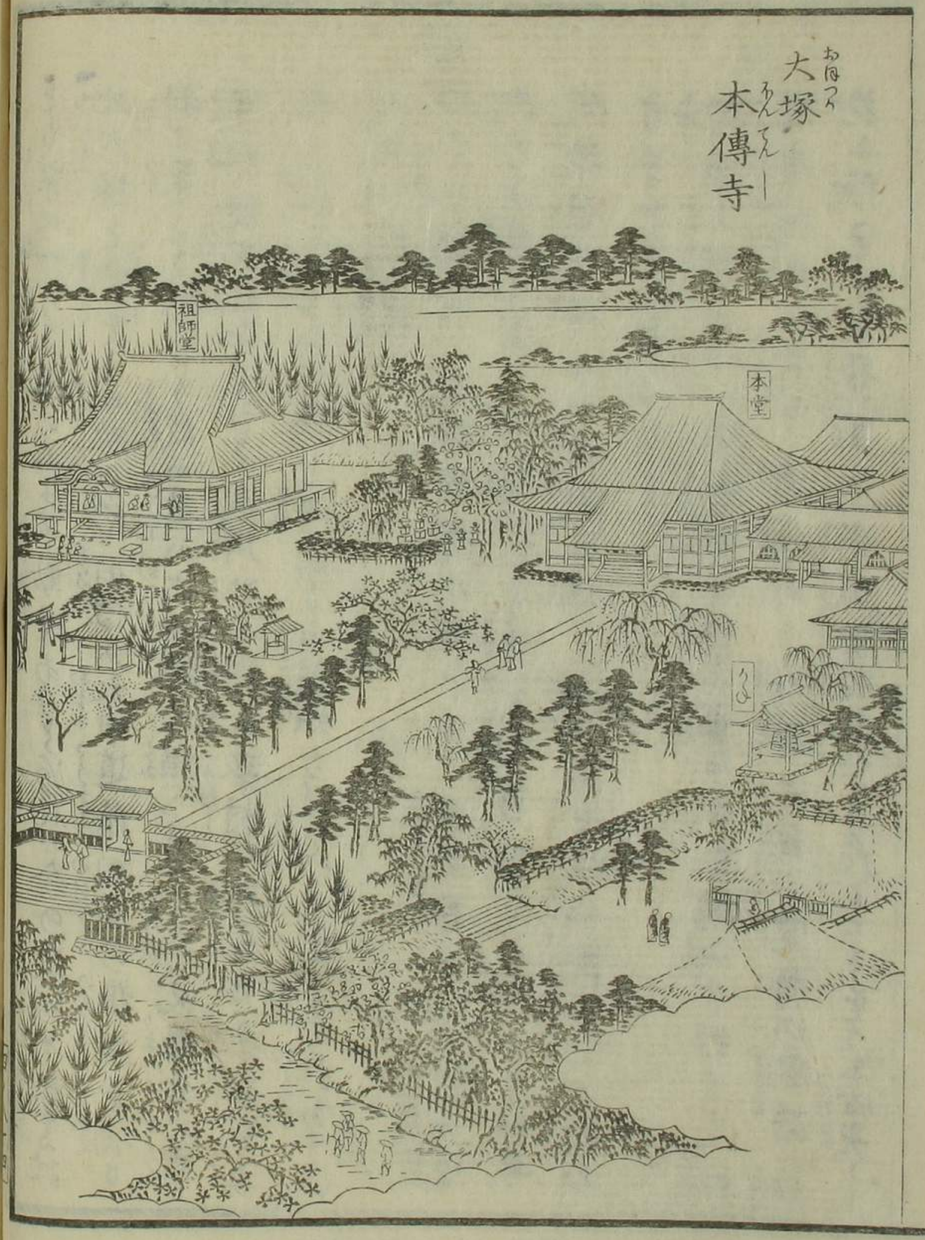
桂昌一位尼公御帰依浅ふ諸堂修理を加へひ丈余ん
地蔵尊ふを安置なしめられくり此地麓ゆを堰口の流を帯ひ
水流涼ふとしく日夜ふ絶も早稲田の村落島田の森林を望ふ
風光の地なり境内貨食亭多く何ふも渥ふ臨やり
開口八幡宮　堰口目白坂の半服左側よあり神躰ハ佛工春日の作
なりとのふ當社を上の宮と称も下の宮ハ先よ関口水道町鎮守ふ
しく祭礼ハ隔年八月十五日ふ修行も當社も下の宮よ同しく
洞雲寺奉祀くり
大塚　小石川原町の辺より護國寺の辺迄の惣名なり　或人云古へハ大塚の地東
蕃邨古の奥州街道ふく甚廣莫の地なりしと或人云今の水戸大学屋の
窪の辺を東大塚ふく此辺西大塚と称せしとより雑声ふ或人云今の水戸大学屋の
則大塚と云ハ是なりと本傳寺日蓮大士縁起ふ云く又南向亭云く
安藤對馬屋の東の方森川氏の構の中よ一堆の塚あるをいふ

目白坂
関口八幡宮

とも紫の一本は塚の上より不動堂ありとなれハ今の波切不動ぞ
地大塚と称する旧跡ありや相伝ふ太田道潅相図の狼煙を揚る
料ふ築ける塚なり故ふ昔ハ太田塚と唱へるとぞ又鎌倉初軍
守邦親王乱をさけく武州比企郡大塚村ふ逝去を其廟を王
塚と称せるふ大塚と号くるも此類なるべんとぞ詳ふ
江戸の内ふ大塚の名多く可考

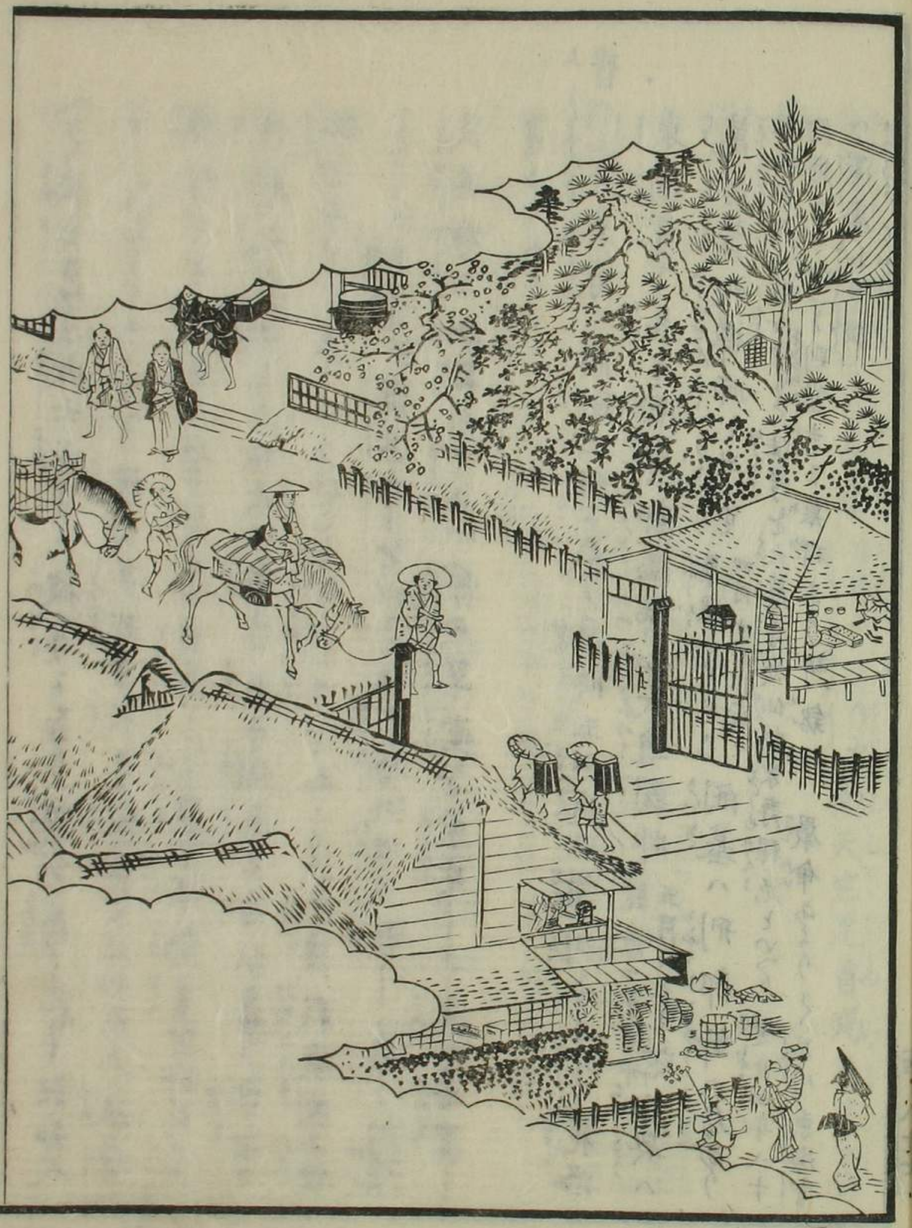
大法山本傳寺　大塚町横小路よあり日蓮宗やく駿州蓮
永寺よ属せ昔ハ禅宗やく重光山善性寺と号く元和年
間瑞應禅師今の宗風ふ改め
寺号をも本傳寺とす
経讀日蓮大士　縁起云く往古當寺中興開山日行上人始
瑞應禅師と称せ頃蓮師の宗義を鑑ミ覚悟の要路ハ法
花ふ限るりを發明し宗風を改せんともさふふ心決し





大塚本傳寺

かくし依元和三年丁巳四月三七日の間不動明王の宝前ふ
おいく法花三昧の行を修しくるふ同廿五日結願の夜の夢よ
明王姿を現し師ふ告さく云く汝前生ハ法花の行者たりしも
くとも臨終の期よ至ら唯空永滅の念を起しくるうし謗執ふ
因くて空無の見ふ堕とものくとも今宿世の妙種あるまくて本
心よ帰まり速よ権宗を捨てく実教よ入へしく我も久しく
妙法の醍醐味をあぢんせんとを発しうし正ふ今一乗の法
蓮を開うんとまるの時至まり社壇の艮ふ當く基を開く
るしう地必妙経讀誦の霊音ありく不測の像を感得す
へしと云く師終ふ此霊夢よ依く心を決し同廿八日日遠上人ふ
謁しく受戒し号を日行と改む 日遠上人ハ駿州貞松山 心性院の寺主なり 又霊ふ
任せ同年六月一宇を開うんとしく其地を卜せしふ同十三日の
夜土中忽然としく妙経讀誦の霊音あり翌を待て地を
穿つの数尺果しく此霊像を得くうしへ此不動尊を世ふ波切不動と称せり次の
条下よ一宇の香堂を営くく是を安置をと云云 此霊像何人ぜ作
項日行上人一百日の間法花懺法を修しくうしふ霊像師の夢ふ告て曰く汝宿
縁あるに依しくうしく吾像ふ値遇をまるしく速よ開き顕此地不動の堂
開よ一人の信士あり明王の告あり教化を受く師擅
約をなせり別ふ堂前の松樹を伐て霊像を彫造しく我像を彫造しく彼信士よ
拠与せり汝う感得まる不の像を則これありと示しうしく竟ふ大士の手刻
波切不動尊 同所大塚町の通を道より右よ入り別當ハ日蓮宗通
玄院と号す
縁起云此本まるハ始勢州一志郡小幡村大乗寺よ安置あり然よ
建長五年の春日蓮上人伊勢路を過ものふ霖雨ふく宮川の
水まさうしくハ渡をものあらを時よ一老翁来つくく云く
師川を渡らんとものくハ我れ水を切の術あり、とて則師を誘
うしくたまふしく水上を渡しまふしく
とし翁の住所を召ものふ小幡の山寺よ住まるとのくい



波切不動堂

へく失去まり大士夫より彼寺よりり翁を召れしに知人
さゝ〳〵ふし〳〵依く寺僧より其故を告く彼而を立出のゝ後寺
僧此事を不審よりひらき〳〵ゝ其寺よ安置の不動ゐを拝せるふ
佛躰水ふ濡ものゝ依大ゐ驚き直ゐ明王を負ひまり宗祖の
跡をもとひ給ひせられとも手ゐ後形東國ゐ趣
こゝ〳〵ゝ在るの靈示あるを以く此大塚の辺ゐ移し〳〵多〳〵農
民其塚上松樹の下ゐ一宇の草堂を営建〳〵是を安置し
なゝゝゝり

普門山大慈寺　同所上町よあり京師五山派の禅刹ゆ〳〵く花洛
東福寺よ属せ開山ハ勅諡佛知大通國師　観應二年辛卯
五月廿五日寂中興ハ
萬古菁大禅師と号せ　開基ハ刑部卿の局ゐり
天寿院殿の侍女ゆ〳〵く法号を大慈寺殿仏栄寿禅尼といゝ慶長四年八十
餘歳ゐく逝ぜう則當寺よ墓碑あり碑銘ハ　嚴命ゐりく品川東海寺
の澤庵和尚撰

本尊葵正観世音菩薩　座像ゆ〳〵く長
督文會督首勲の作なりとゝ
鎮守日吉豊國両社　社人内藤氏奉祀す
造酒地蔵ゐ　寺境見耕庵の本ゐゆ〳〵く天竺佛〳〵
原北条家の頃品川の海底より出現あり後
大澤坐の禅師住寺の頃葵正観世音火防守護のゐ見耕庵をゆ建立ありそこふ
撥〳〵ゐ〳〵ゝ其頃或夜佛告曰く
正法千歳在佛在世　像法千歳遊龍宮海
末法中救此界衆生　今世後世令離苦惱
いゝゐゝ旅ふや此かんゐ酒を好こゝゐ名ふ造酒の二字も
めゐひ又造酒の二字を諱額ふかさ〳〵れ當寺ふ伝ゐ今も
祈願あるゐのゐ必酒を捧けゐる
縁起云葵正観世音菩薩ハ昔時行教律師天竺より携来せ〳〵
靈像なり　欽明天皇已来将〳〵そ右大将頼朝卿及ひ足利
家よ信〳〵夫より後代〳〵の　将軍家崇信厚う〳〵ゝとゐり中古
日向國志布施の龍興山大慈寺よあり其後又花洛東福寺の

寺記云此靈像ハ往古小田

支院三好山長慶寺の本尊
東照大神君御崇敬まし〳〵竟ニ江戸の大城へ迂座なし給ひ
毎月十八日天下泰平ならん事を祈祷とし〳〵観音懺法等を修せしめ
らる殊更葵の一字をも附し給ひ天壽院殿も御信心浅うさら〳〵ならず慶安二年當寺を創し給ひ刑部卿の局を開基とおされ此かるを當寺へ移し給ふとなり
を引く創基なし給ふ山号をかされ又
附せられしとなり

鳩巣室先生之墓　同所坂下町の北の裏小丼の西の上よあり傍ニ墓もあり

息男忠三郎洪謨の墓

先生姓ハ室氏諱ハ直清字ハ師禮鳩巣と号す通称ハ新助後ニ喬を命し〳〵静儉とあらたむ其先ハ熊谷直実の裔ニて代〳〵備中國英賀郡ニ住つ考諱ハ玄撲草庵と号し江戸谷中邑ニ産す異嶺あり眥蹴人ニ絶も加藩ニ仕へ平野氏萬治元年戊戌江戸宅ニ業を木下順庵先生ニ受け京師ニ客ること十年貞享元年東墓の徴ニ應し来つく江府ニ就く往復贈答の什積て大東振古いまだあらざる和以て大東文明の美を糺し章句の温を発し德元年東墓の徴ニ應し来つく江府ニ就く往復贈答の什積て邦國治平の盛を讃し装を成し濂閩千載の秘を弘闡し有德公統を継く後特ニ其風海表ニ播し是を垂裕ニ宣ふ足下侍講を授く此職の設益此先生ニ始る嘗て是を嶽を又六論行義大意を述官命ニ、是を鐫め天下ニ布も是ニ先生偶未疾を中庸及ひ易経廣義を著も考訂よ及ぶ先災ニ罹りて終ニ以て愈を発し德元年東墓の徴ニ應し来つく江府ニ就く往復贈答の什積て感し重ねて稿を属もするに先を以てし大極図述を著し病面駁墓雑話を著す旨あり是を徴を因て家居一頭養を以て愈を発し德元年東墓の徴ニ應し来つく江府ニ就く往復贈答の什積て偏を成濂閩千載の秘を弘闡し後学を来世ニ俟此乃先生の絶学なり享保十九年甲寅八月十二日駁墓の蹟弟ニ卒を年七十八州の豊島郡大塚里ニ葬る

（鳩巣文集前編伊東貞薫休の叙よりて其要を摘す記す）

筑波山護持院　音羽町の北ニあり　真言宗ニて和州長谷の

一派なり寺領千有五百石を附せらる

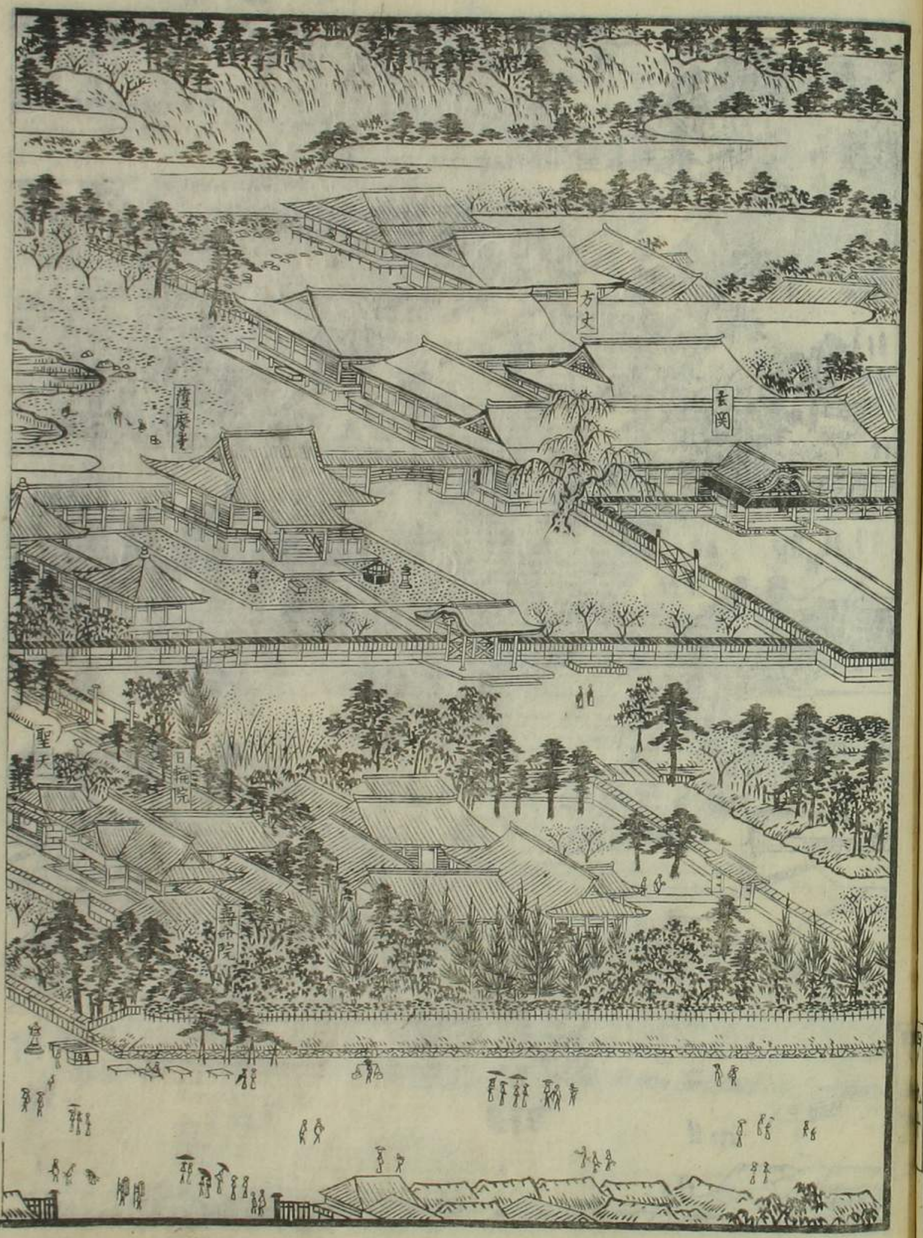
本堂本尊不動明王（作不詳往古ハ行基ニ作ると云ふ）

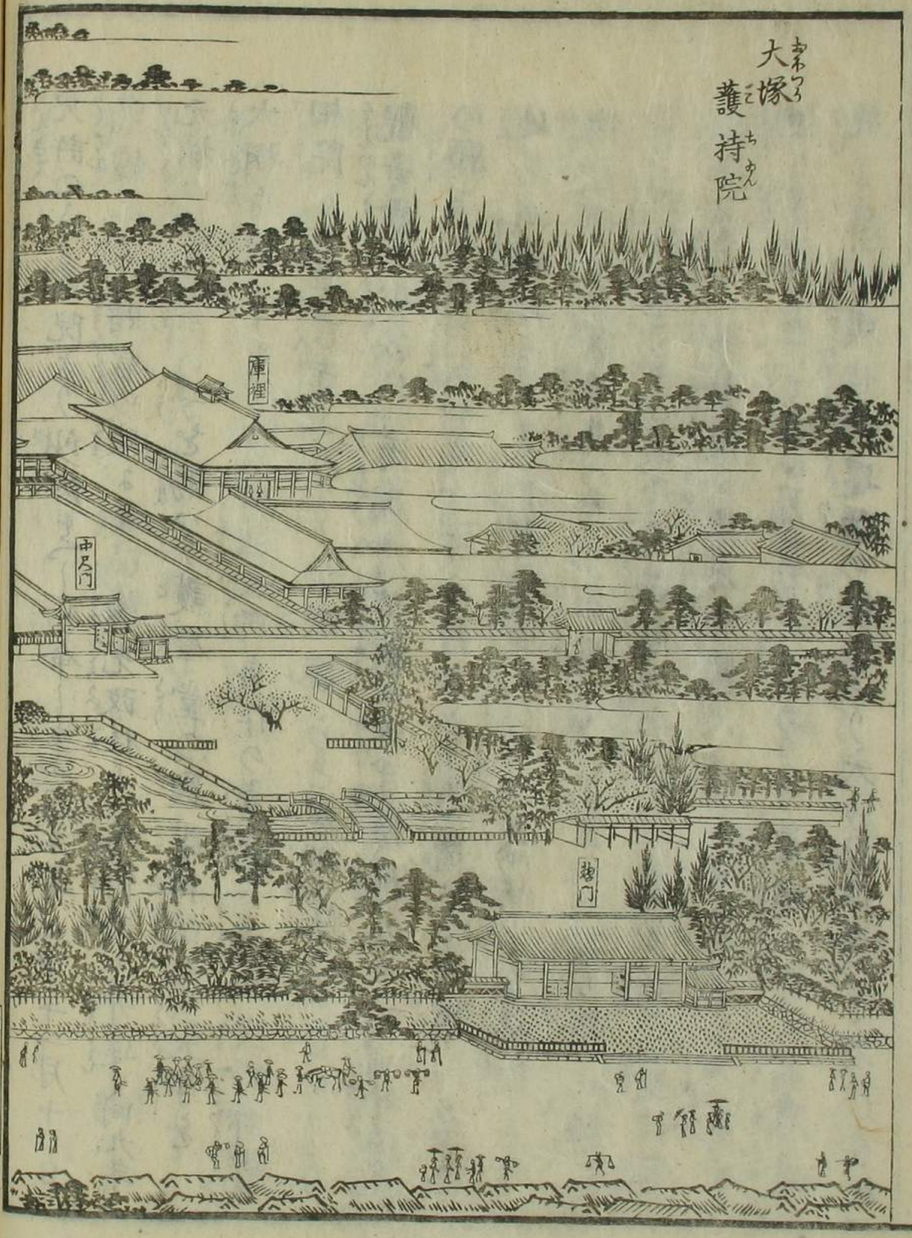
歓喜天（右ニ蟹を置く）　池（庭前ニ又一池あり）

権現山（後園ニ小山を築き自ら釈迦佛を安置せしと云）

當寺開祖権僧正光誉ハ和州初瀬寺の西蔵院ニ住職ありしニ江府ニ召れ常州筑波山の宿寺を下し給ふ則知足院と号す　其始知足院宥俊ハ下野國筑波山中善寺を兼

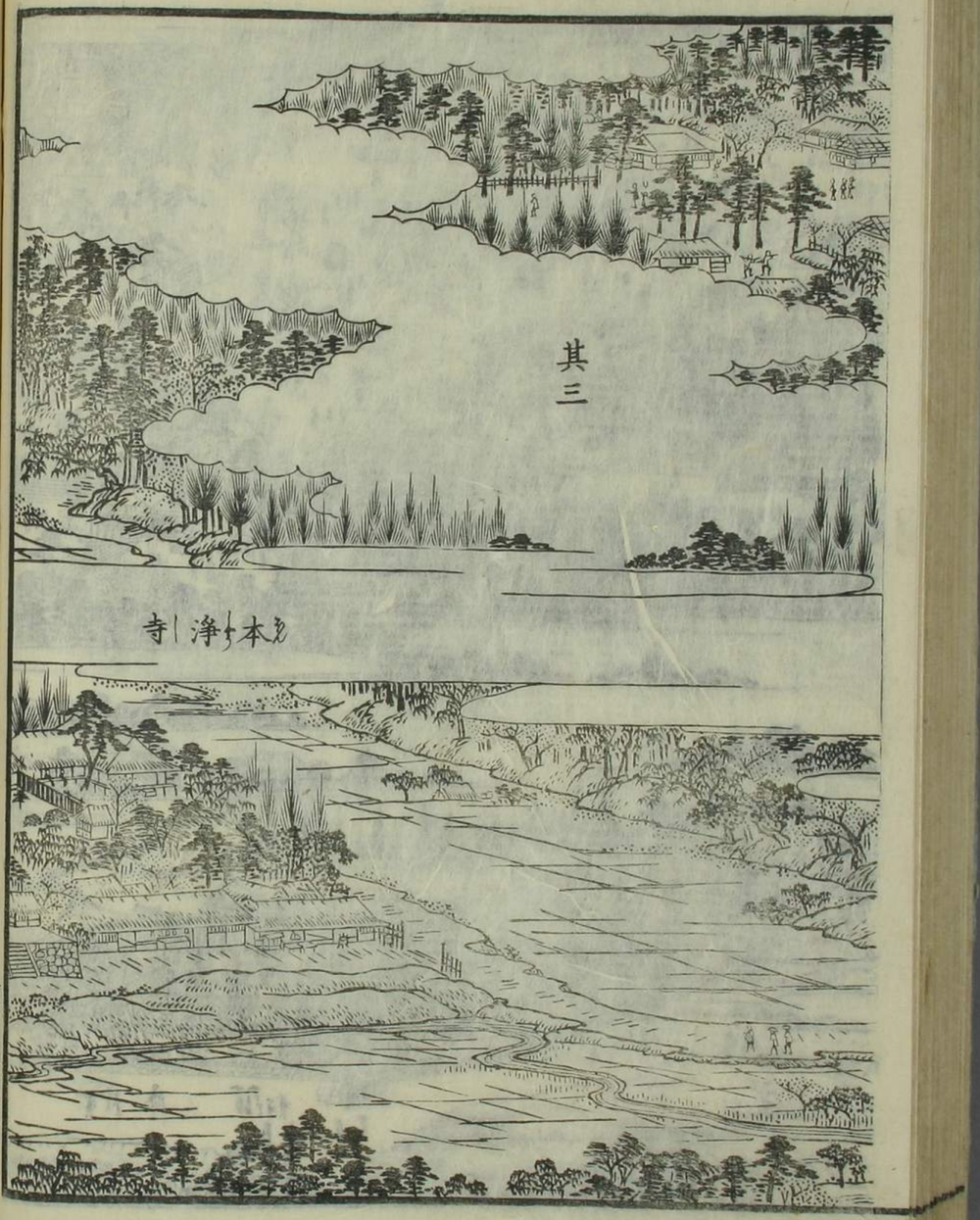
帯し真言新義四箇寺の支配し慶長の始大神君の
嚴命を蒙り江城の護持所と定させられ同庚戌の年江戸
銀町ふ寺院をもふ（其地未考九軒町の邊ならん）
癸亥年大坂御陣の頃も光誉命を受く御陣中ふ於く祈
祷を其後寛永三年丙寅大猷公諸伽藍御建立あり
延宝二甲寅年有廟御再修あり天和五年壬戌十二月
火災ふ罹るよつく貞享元年甲子湯島切通ふ移しもふ（今の
根生院の地なり）憲廟御帰依浅ゝ元禄住元の年神田橋外
武士屋敷の地より移され松平若狭守仙石越前守ふ命せられ
護摩堂祖師堂観音堂経堂灌頂堂鐘楼堂二天門坊舎ふ
至迄金銀をちりもめひ隆光を開山とし権僧正ふ任せらる又
護持堂ゟ建立あれく釋迦佛を安せらる同四年八月寺領千五
百石を附しもひ院家ふ列し関東新義惣録とせらるも色衣
免許のゝ當院より沙汰をしと傘しもふ同五年壬申十二月十二日
覚鍐上人贈官の時よ及ひ隆光改任し大僧正ふ昇進を同九年
元禄山護持院の号を賜り護摩堂の額護持院の三大字を
大樹自灑筆なもふ弘法大師自作の真像ハ濃州大野郡實
相院と云真言寺よありしを取寄らる祖師堂ふ安置せしむ
観音堂の本尊ハ有廟御信敬の仏守護佛なり大僧正隆光
の願ふより宝永四年丁亥二月廿五日退隠しく駿河墓ゟ
迂ゟ成満院と号を依護國寺住持快意僧正を後住とし
御成ありく繁昌先のめし宝永六年己丑八月六日隆光願に
より大和國ふ移る故ふ成満院の跡快意ふもふ仍く爰に隠
居す後住ハ知積院小池房住職なゝく傘ありく入院す
然よ享保二年丁酉正月廿二日火災ありく堂塔一宇も不残焼
失しくれハ其ころ頃住持退隠の願よより夫より後寺号及ひ食禄


方丈
玄関
護摩堂
聖天
祖師堂


大塚護持院
庫裡
中門
惣門

其二

護国山
七面堂
本堂


其三
寺浄土本乙

其四

護國寺境内
西國札所写三十三所観音の圖

其五

其六

とも護國寺おゐび大塚護國寺の内より迁り江城護持の祈願所となるべき筑波山兼帯の坊舎日輪院月輪院と云ふり
山開毎年三月廿日弘法大師の御影供修行あり此日諸人お庭中の
神泉をくむ
巖山護國寺 悉地院と号ふ音羽町の北なり新義の真言
宗なり和州長谷小池坊より属す開山を亮賢僧正と号ふ公ふり
寺領千二百石を附せられ盛大の地なり
像開基 古鹿子ふ云寺領三百石大猷公守御本ゐる馬脳石観音

本堂 本尊如意輪観世音 馬脳石ゐ天然のものゆり元禄半の頃
持ゐしを黄檗隠元老師の弟子黒滝の前川三左ゑ門道寿と云人異邦ふ渡る
音ふ授与ず依故あり桂昌一位尼公崇敬ゐ由事監合考ふべし
の柱を掻拄ら云ふ木理猿の面ふ等
薬師堂 本堂左ふあり本ゐる薬師仏の潮音前川氏と師弟の縁あり
霊像なれば本堂より今の処へ迁り
西國三十三番順禮札所写 昔當寺草創の時此地蟹池より出現ゐり
開き谷其地禁ふ因く諸人の眼をうろこそしむ
歓喜天 境内寿命院ふ安ゐ天下安全の浴油の法を修せられ寺產をゐ
永代不退ゐり

仁王門　仁王の裏よ置所の黄日増長の今宮五社當所鎮守と云天照二天の像ハ古への火災よ残しとの大明神今宮大明神三部大権現五社と称る太神宮ハ幡大神春日音羽町桜木町青柳町桜木町ホの鎮守なりと云伝ふ涅槃像大幅當寺宝物と猶安信の筆なり足代を掛引上ゝ抽本迫開らるゝ

當寺ハ延宝九年二月七日上野國八幡別當大聖護國寺の住持法印亮賢ふ高田沙茉園の地を乞ひ寺と号亮賢初　御在胎の時より祈禱をなし元年よ　憲廟将軍の宣下蒙るに依て天和建の大聖護国寺を仁和寺よ録し院家と依て寺領三百石を附しめ貞享二年十二月廿八日よ大聖護國寺住持法印賢廣黄衣を許る後元禄年中　桂昌院殿一位尼公の御志那ふよつて茅園の地を狩し其頃御建立ありし江戸密乗最大の梵宇ゆゑ結構御造営春時ハ櫻花爛漫として頗る地勢洛の御室よ髣髴たり

寺ハ京の清水寺を摸なしあつけらん又音羽町九丁あるゆゑ涼よ一条より九条まで昔の本堂ハ今の舞臺をかけ堂宇かりそめ當寺ふ桂昌一位尼公沙遺物を収らる今猶往ゝ開帳の頃諸人ふ拝せしむ金銀をちりばめ其結構言葉のつくしがたし

星谷の井旧地　護國寺の西の谷よあり其地を星谷と号す往古此地よ星祭を修もる行者ありしく本浄寺の裏ふ塚のことゝもありしく星産と号け其傍よ一ツの井ありしを此井早魃ゆも水絶せしことなく後埋もれしく今ふ及ふまで踏を存じ符水某水ふ求る人多し此下流よかゝる橋を星谷橋と号く

大野山本浄寺　護國寺の西小篠坂あり日蓮宗あしく甲斐の延嶺ふ属せり真珠院日要上人（日要上人ハ身延山頭を以て開基とす始谷中よありしを是院の住主）宗祖上人の像あり

宝永三年此地よ移しゝとぞ當寺ふ

七面大明神　神躰を身延雑形の像と往古本山貫首日悦上人紫衣勅許のものゝつゝ當寺櫃那大野氏藤江何某勲功ありし故なり是を謝せんとする宝蔵より収むる所の七面天書をうつす前夜虚空蔵の額あり九月十八日祭祀ありし頃より其験を集めし弘安三年より大黒天の像を造らしむ則背面に日蓮上人の真筆なりとあり

此經尊日蓮日讀以青龍凍之五百滅後流布

是生印

此霊像を日親上人感得ありし證書を添らる後横井氏某當寺へ収蔵すといゝ是生とハ日蓮大士清澄寺の道善を師とし落飾染衣の後道善命名の名なり

御嶽山清立院　護國寺の裏門より雑司ヶ谷鬼子母神へ弁道の右側小坂を傍りくだり雑司ヶ谷本竜寺の持とす　常唱堂ハ安置の宗祖上人の霊像ハ日法上人の真作なりとよ相傳正嘉年間開東疫疾流行の頃行脚の沙門此草堂へ投宿の間此地の人々病患を救ひ又別れを臨むの時此霊像を止め置くりと此像威霊わろ尓後世新ふ別像を造るとも日法上人作の像をばこの新像の胎中へ収むるとなりの前あり元年間當寺の住僧日意師と請雨松　堂前にあり干魃の年ハ農民この下へ集り請雨を當寺の日蓮上人の影像ハ乞雨ふ霊験ありくく郷人大ふ信敬せり此樹下ふ存する尓の石像ハ日意師の肖像なり

雑司ヶ谷鬼子母神出現所　本浄寺より南へあり此地を清土といふ蒼林の中ふ小社あり則雑司ヶ谷鬼子母神出現の地ふくく同じ神を鎮むり社前ふある尓の井泉を星の清水と号ハ往古鬼子母神出現の頃此井ふ星の影を顕現せしくるありくく尓名つくるとぞ

不動山宝城寺　清立院の西の小坂を隔てくあり豆州玉澤の法華寺ふ属す當寺安置の日蓮大士の影像ハ大覚大僧正の作なりと

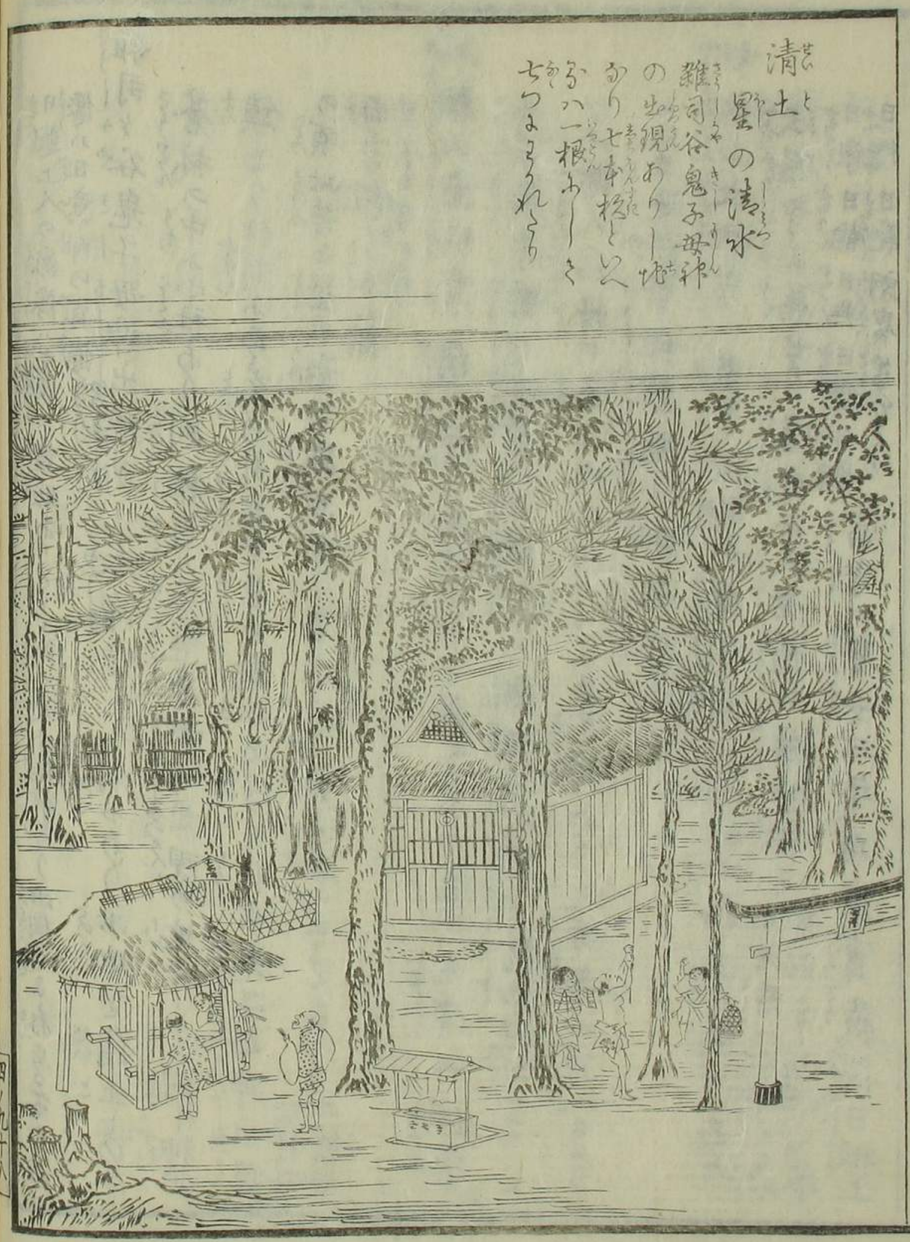
ふ諸人結縁のゐ正五九月の十三日内拝あり又毎年十月八日あり

十八日迫法華経讀誦千部修行あり

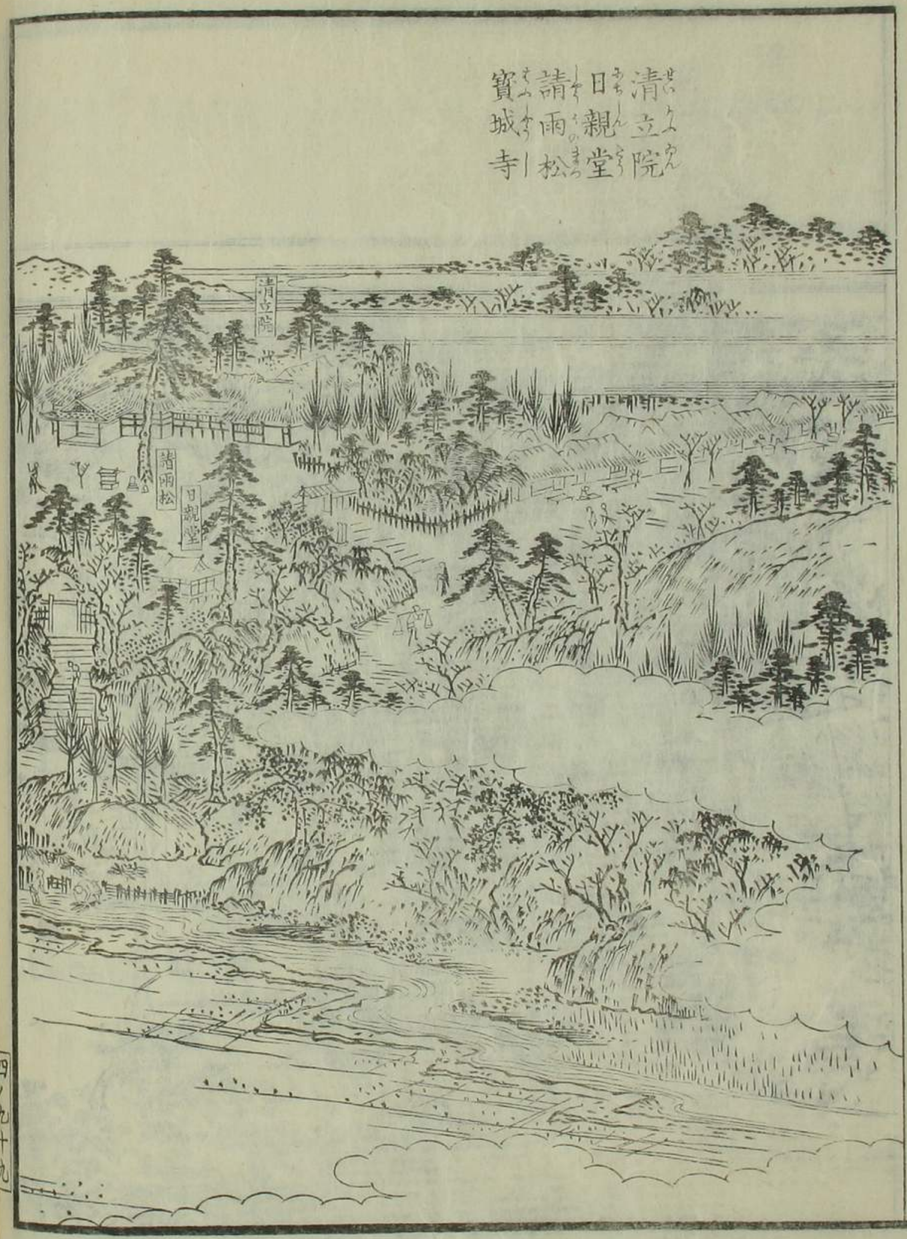
妙永山本納寺　鬼子母神の堂前東の方七小路左の側にあり

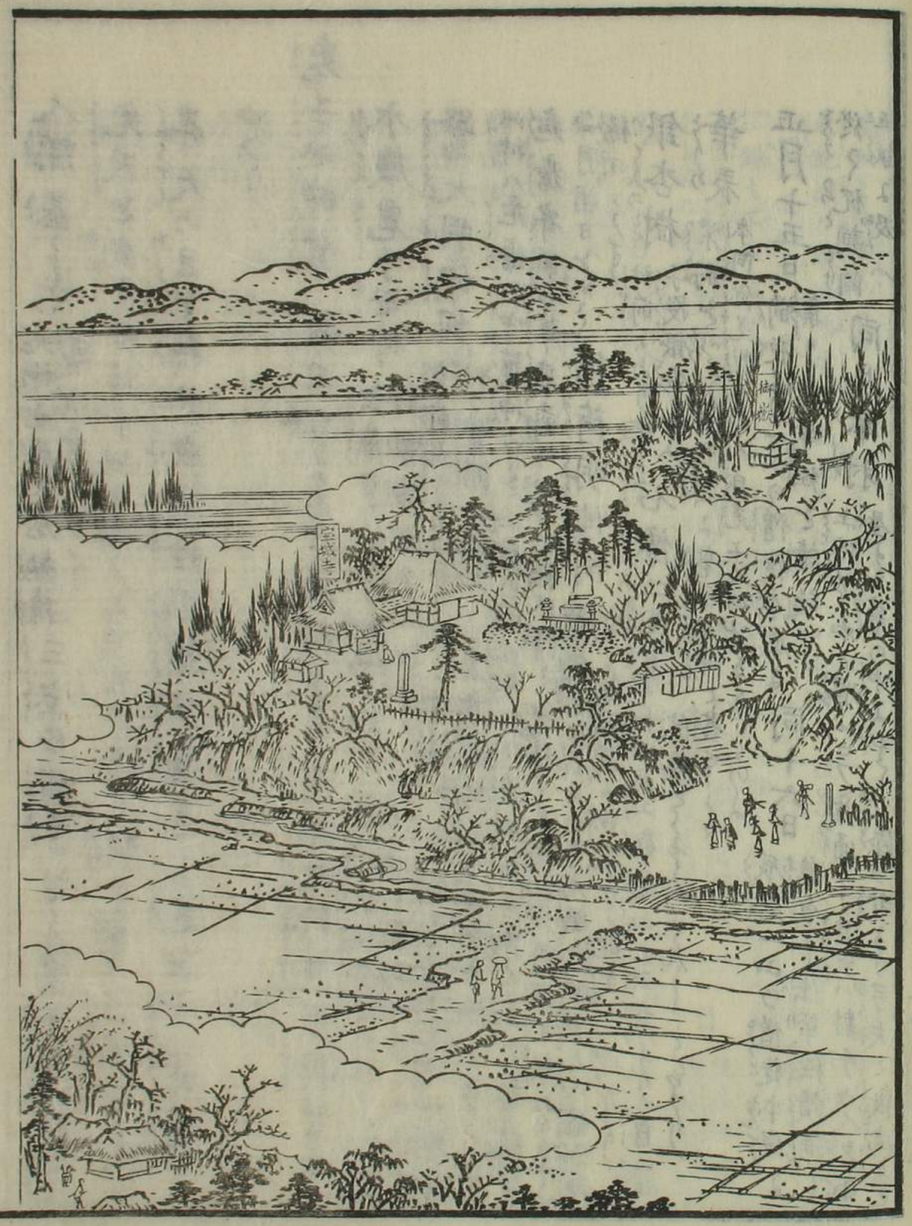
法明寺ふ属せり當寺ふ九老僧の像を安せ九老僧ハ日朗上人の徒弟くり所謂日印　日像　日輪　日典　日澄　日善　日行　日範　朗慶等なり　當寺へ慶安三年庚寅實蔵院日相上

清土
墨の清水
雑司谷鬼子母神
の出現あり一地
より七本抜とい
るハ一根ふとき
七つよろれる



清立院
日親堂
請雨松
寶城寺



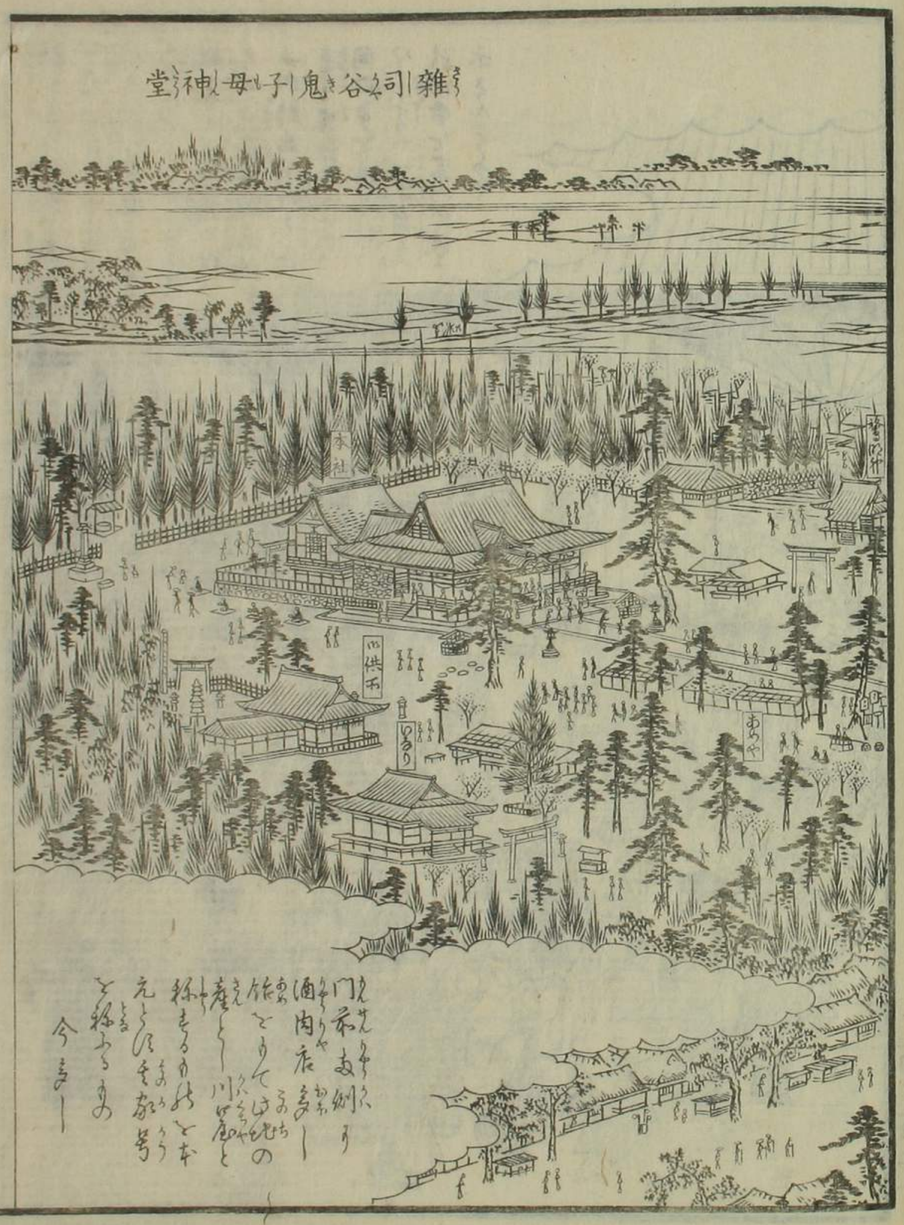


人開基〳〵天神地祇人鬼勸請三宝の諸ゐ〳〵ひふ日月星の三
護法堂と号す
光天を安を毎月十七日の夕より廿三日の暁まで三光同時よ
昇天の旦を待終夜誦経唱題怠慢なし是を十夜待と
いふ

鬼子母神堂　雑司谷ようあり法明寺の支院大行院の持なり
本殿鬼子母神　銅像なり鬼子母神一名を訶梨帝母天と称す　相殿　四満具足天鬼子母神の妻
鷺大明神祠　祭る神詳ならず或云出雲國神戸郡鷺村の鷺浦より鎮坐し給ふ素盞嗚尊の妾女皐諦女ありとぞ
此神ハ疱瘡の守護神ありと正徳の頃松平相州庚神告よ依く是を勧請す
疱瘡寄願の輩廣前の小石を拾ひ得く守護とも例年八月朔日祭あり
毎月朔日を以く縁日とす　社前なり世よ石像二王尊　和田戸山盛南山と云寺より自
銀杏樹　子授銀杏とも　院殿とぞ書せしとぞ
華表　榮銅　本阿弥光悦の門人日光上人の筆を頒よ鬼子母神と相殿右の方なり天照太神宮と八幡太神宮とを合祭す地主の神なり
正月十五日　前夜より一山の僧徒本殿よ集り法華経を讀誦す　同十六日　辰刻一山の僧徒本殿よ集會し法華経讀誦す其式ハ射手六人各小屋より入
同日奉射　土俗ひやと唱ふヒフ音通ず幕の中よ坐く介添の者より弓矢と數度とを
終く祝詞酒五献よ及ぶ

清取この間式あり後射手壹人ゆく筋と放つ都て三拾六筋あり日記付
来配振矢取介添各式あり射手六人射終く後一番より次第一小屋より入
此間一山の僧侶又氏子の輩集會し酒五献ありて終る此式天正文禄の頃
記録も不束ありしハ寛永十一年長島氏ハ此所の地主ゆて今大門左右よ繁茂
後世小侍ありし長島氏ハ此所の地主ゆて今大門左右よ繁茂
もる木の枝乃列植も此人鬼子母神へ寄進ゆて栽くるとぞ
万巻陀羅尼讀誦
同十八日　尼修行　四月八日　鬼子母神へ衣替　五月十八日　尼讀誦　六月十五日
此地の農夫集く社頭の草木刈拂ふ草薙ゆ
草刈拂ふ草薙ゆ　衣替ふく同十八日迄
万巻陀羅尼讀誦　七月十五日　草角力と号行せり　九月十八日
当社の追儺ゆて男女社壇よ群集し誦経唱題をハ撃尤賑し　院主下一山の
僧徒内陣よ候し陀羅尼品を誦るゆ十三巻終て当前の供豆ゆ打出も群集
の男女争て是をひろふ
縁起云此本尊ハ永禄四年辛酉五月十六日此地山本氏田口氏ゆる者よ
連綿ゆく子孫今猶池水よ星の現もるを見く後平地を穿ち鍬下よ是ゆ
得ありしとぞ
今護國寺の西よ其出現の旧跡ありし星の清水と称す
贈東陽坊ハ今の乃佛殿よ安し依東陽坊第五世日性師よ
大行院ゆて十有余年を歴ゆ然よ安房
國の沙門某ゆる名知日性師よ仕へるゆふ思ひゆん密よ此霊像を

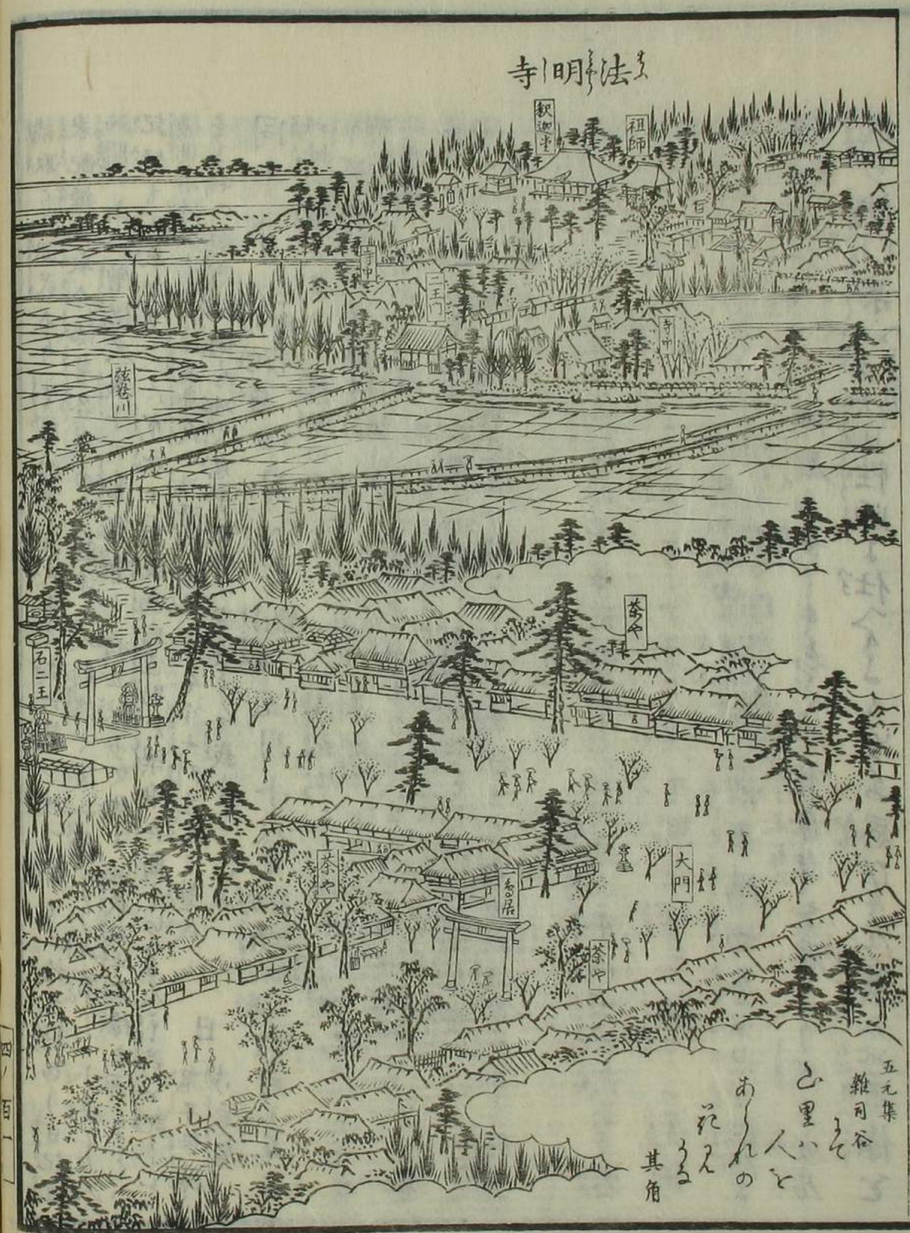
雑司谷鬼子母神堂



雑司谷
七里ハ人と
あられの
花えう
其角

五元集

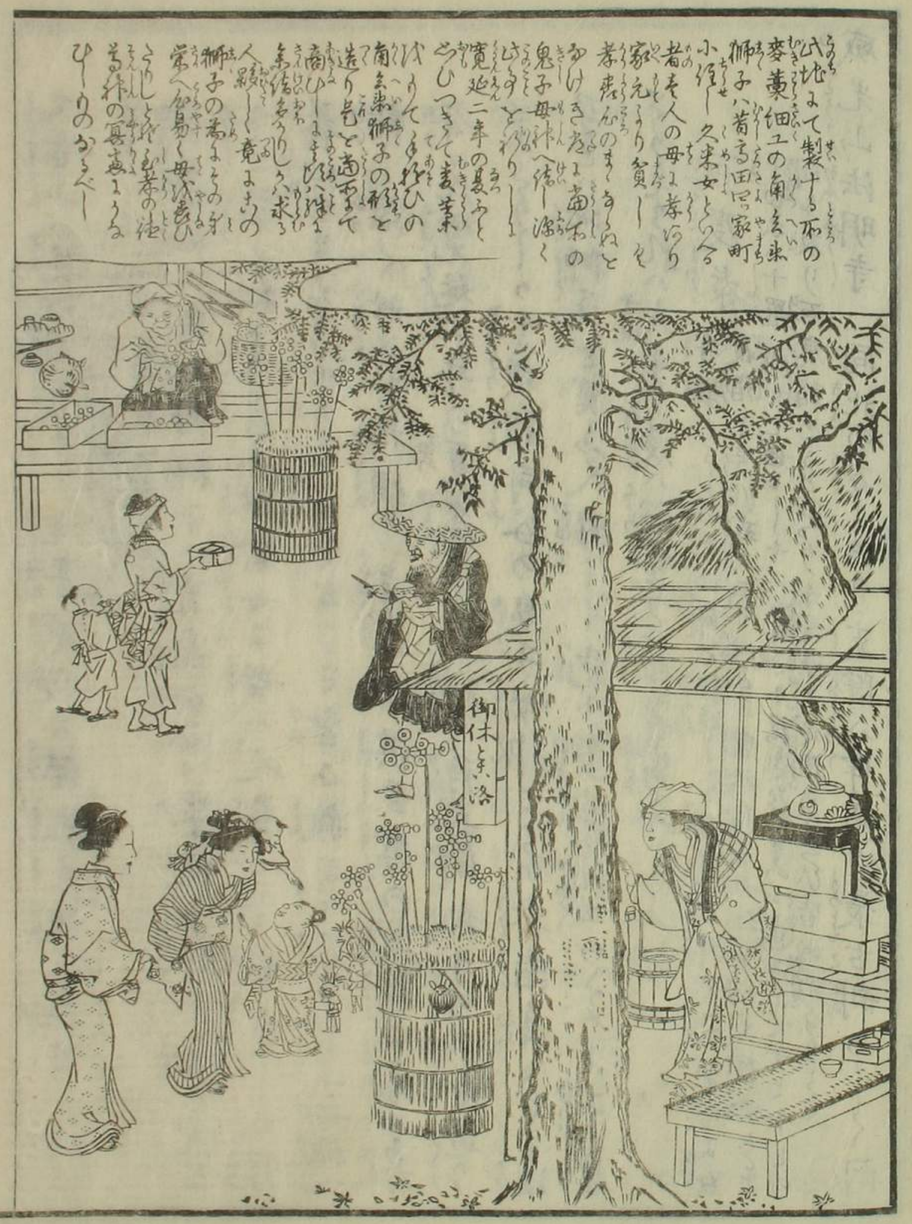
法明寺



雑司谷の會式は毎年
十月八日より十三日迄俤
ゆも来詣の輩も同く
六日のひより廿二日のひまで
群集して俤廟の如
き中央各機関未偶
おの飾物を做々の
まも宗祖上人一代の
間のまて造りなら
ハ一宗無二の
仏功労を宗つの徒
示さんとや

菊酔日
伐佐
ゟり
山余
集
七廿五

盗ミ故郷ゟ帰ふ　其年天正五年ふり　忽病を発〳〵一日自口そ〳〵く
我ハ元武州雜司谷ゟあり彼地の衆生機縁既ゟ熟を正ゟ済度を
乞ミ時を始く泥土ゟり出現せ〳〵をこゝゟ移まゝ我意ゟあら〳〵す
直ゟ元の地ゟ帰を〳〵ゝゟり時ゟ村人大ゟ怖を畏ミ再ひ東陽
坊ゟ迂〳〵まゝ仍諸人霊威あるを知く祠の草堂を営ん
とく往古ゟり稲荷の社跡と云伝へ〳〵叢林を開き竟ゟ天正六年
戊寅四月十日ゟ始く斧を下〳〵同五月朔日経営落成〳〵ゟ
安置そ〳〵後寛文六年ゟ至そ自證院殿新ゟ寶殿を造立せゝる
今の本殿是なり自昌院殿ハ加州黄門の息女ゆ〳〵く安藝守の令室〳〵
此地ハ遥ゟ都下を離ゝゝとゝも鬼子母神の霊驗著明く諸願
あやまらん悩あゝゟ常ゟ詣人絶ゑそ依く門前の左右ゟ
貸食店軒端を連ねゝり十月の會式ゟハ殊更群集絡繹とて
織ゝゟめ〳〵風車麥藁細工の獅子川口屋の飴を此地の名産と
云ふて製ゝる茶の麥藁細工の角兵衛獅子ハ昔ゟ田舎家町
小供〳〵久米女ゟ今者そ人の母ゟ孝ゟり家元ゟり貧〳〵そ
養育のまゝうねとゆけきゐゟ面布の鬼子母神〳〵信〳〵深く
寛延二年の夏ゝゝひつきて麦作
ひりてゟ打ひの角兵衛獅子の形を造り色と通ゟて
着ひまゝ手綱をしぼり人形〳〵竜ゟよの
獅子の着ゟうの
栄へ給ふ母ゟひ
ひ〳〵の裏ゟうる



又當山ハ花の名所なり　近年境内ハ櫻数多植く往昔ハ優せしかとも太田新六郎所領の頃ハ七条家分限帳江戸雜司谷
麥藁細工角兵衛獅子ハ昔高田四ッ家町ハ住し業とす
女子製し初りとそ此条女ハ母一人ありしか家貧しく孝
養心のまゝかゝりしものをなくさむ常ハ雜司ヶ谷の鬼子母神へ
詣し深く此ことを祈願しなすに其至孝の冥慮よりや
有りけん寛延二年の夏麥藁細工を以く角兵衛獅子の形を造り
そかりしを頃雜司谷の鬼子母神ことゝふ参詣多うもし頃
なれハ此獅子を買ふ人夥しく竟ハ麥藁細工のみならず身
そくれハ夫より後ハ心やすく母を養ひとそ

百度参　寄願あることの有時ハ社前を往返しく百度参拝を遂ハ百
度詣と号け或人云く此ことハ當社鬼子母神を以く権輿とそ
名八十羅刹女と始とし十人の子ありしを十と千との
間を取り百度詣まことにつり千回ハ子供の数皆此ありとそ
威光山法明寺　同北の方よりあり支院八宇あり最古刹ゆゑく尚

寂々寺院なり　庫裡ハ鉦作ゑ門前よりあり往古擁
釋迦堂　奈良釈迦多宝両如来の像仏を安ず　祖師堂　同釈迦堂の右ハ並ひ中ハ宗祖
日蓮大士の影像と安ず立正安國論ハ此所にて若ハ此堂中ハ旧物ハ拓て若ハ
なり鬼子母神の前よりあるゝ雜木ありとも當寺日源上人の御夢想なりとそ
飾を施せ補正行の息女ハ如無入道某の室ゆゑ千頃夫婦ともに大檀越とそり
弘仁九年戊戌飛錫直作ゑ古當寺真言宗なりしか時源家累代祈願所
堂なりしとそ今も昔のまゝ存せり　釋迦如来石像　往古式武夫損死の難を遁れ
うつしゑその像ハ志趣を報恩の為記せし石碑を建しとそ
盤ゑの形を鑄付ゑり諸人見ゑ奇異かり　鯨鐘　同ハ銘文ハ
時い新しも亦教ハ頒ゑりそ此形を鑄
鵜の南日蓮宗法性寺よりあるゝの鯨鐘そ
二王門　左右ハ金剛密迹の像を置く
運慶の作なりとそ

正月元日　同三日迄本方よりおのく同十三日
古法の式例あり　誕生會上ハ同し同日より
音楽供養あり　四月八日　夏の間説法あり
七日虫拂　九月十三日　讀誦修行あり
経揃と唱へ誦経す此日より　會式中棟供養修行あり

釈迦堂　十羅尼修行あり　二月十五日　涅槃
同十三日　釈迦堂　十羅尼修行あり　五月十三日　釈迦堂　十羅尼修行あり　七月
十月六日　同七日八日迄の間　前ハ花市立　同日

同十三日御影供俗諺をあせり塔中寺院各飾物をまうく
相傳ふ當寺ハ弘仁元年庚寅草創ゆゑ往古ゟ真言宗の
道場ありしゆゑの開創ありと或云玄覚大師
本の実相寺ゆゑ日蓮上人の法を聞直ゟ宗風を猶し上人の
弘法よゆゑむ乃法号を嚴誉院日源と称ゟ當寺開山是也中
竪秀坊 駿州賀島の実相寺ゟ住ゟ学行群ゟ秀ゟ
按ゟ寺傳ゟ當寺の山号威光と云ゟ以ゟ東鑑ゟ載ゟ所の威光寺ときこそ
大ゟ誤ゟ
弦巻川 當寺二王門の前を東流ゟ小山田の条下谷口天神の下ゟ
辺へゆく音羽町の西の方を歴く江戸川ゟ會せり
大行院 鬼子母神の別當なり往古ハ東陽坊と云天正年間
加州侯の始祖前田利家朝臣建立せられしゟの堂内ゟ
日蓮上人の徒弟六老僧の影像を安置ゟ
或人云く此像ハ始谷中感應寺ゟ残ゟ當寺へ収ゟ
彼寺改宗の頃一駄荷失ゟれ
寺なゟ那ゟ彫刻しそ納むゟゟり又自らの肖像もあり

當院ゟ宗祖歴代の真筆なゟびゟ上古の調度ゟを収蔵ゟ
其余深草不可思儀の
蓮成寺 同東ゟ隣ゟ當寺ハ本山十三世日延上人の開創なりと
ゟり十八老僧の像を安ゟ
日源 日家 日保 日弁 日法 日位 日傳 日秀
天目 日得 日合 日賢 日高 日實 日禮 日祐
日忍 日門 以上
十八人なり

小畑勘兵衛尉景憲檀那
牌堂ゟ安ゟ